

昭和四十八年八月招集

第三回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	二
開議	二
行政一般通告質問	二
辻田 実君の質問、当局の応答	二
流山源次郎君の質問、当局の応答	一二
栗原 一雄君の質問、当局の応答	一九
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	二五
石井 武敏君の質問、当局の応答	三七
散会	四六
本日の会議に付した事件	四六

一、昭和四十八年八月二十七日（月曜日）午前十時

一、鉅山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一番 吉田 勇治郎	二番 鈴木 豊
三番 流山 源次郎	四番 鈴木 稔
五番 近藤 好雄	六番 栗原 一雄
七番 渡辺 昭夫	八番 石井 武敏
九番 辻田 実	一〇番 渡辺 軍治郎
一番 山本 昇	一番 藤田 益治
三番 五十嵐 昇	二番 安西 益男
六番 辻井 謹爾	一番 安西 益男
九番 島野 茂樹郎	二番 君塚 喜三
二番 鈴木 市蔵	二番 田村 源治郎
二番 菊井 敏博	二番 西村 真次
二番 安沢 徳順	二番 望月 照正
二番 田中 禄郎	二番 秋山 六三郎
三〇番 遠山 ヨネ子	
一、欠席議員 三名	
一四番 伊賀 多朗	一七番 宮野 敏朗
二六番 飯田 義男	

一、出席説明員

第一号に加えて

秘書課長 太田 博雄

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程(第二号)

昭和四十八年八月二十七日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

議 午前十時六分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十五名、これより第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の八月二十二日正午までに提出のありました議員並びに要旨、その順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行ないます。

なお、この際申し上げます。通告者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、きょうは通告者のみの質問といたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

九番議員辻田 実君御登壇願います。

(九番議員辻田 実君登壇)(拍手)

○九番(辻田 実君) 通告いたしました水道、衛生問題と、団体後における館山市のスポーツ振興政策と、市の開発と土地政策の

三つの柱について質問を申し上げます。

その前に、本間市長におかれましては、目の手術のため病院に入院とのことであり、若潮国体を目前に、また三期十二年にわたるところの最後に総仕上げともなる四十九年度予算編成の時期に入りまして、まことに残念でございますけれども、一日も早くよくなり施政にカムバックされることを心から祈念いたしてやまなところでございます。

さて、質問の第一点は、この夏市民の最大の関心事であったところの水問題、ごみ問題、し尿問題について質問をいたします。

この問題は、過去何回か質問いたしましたがいまだにその改善の方向が明瞭になっていませんので、再度御質問いたす次第でございます。

そこで、第一に水問題でございますが、毎年毎年夏になると市民の頭痛の種でございます。船形、那古、西岬、富崎、神戸等の市営におきましてところの直営の水道給水区域におきましては別ではございますが、房州水道区域内の館山、北条の市街地ではひどいものであります。

私は、多くを語りません。いかに考えているのでしょうか。房州水道の市営化により全市一元化をしたところの水対策の確立をどのように考えておられるのか、お伺いしたいと思うのでございます。年々、市民の生活は向上しております。水洗便所も普及しております。ふろも世帯ごとに独立してできてきております。その上レジャーブームにのりまして植木、観賞魚類の普及などから市民一人当たりの水の使用量は総体的に増加をいたしております。

今では、供給と需要のバランスが大きくくずれておると思いま

するが、この点についてはいかがなものでしょうか。根本的な対策がいそがれるところではないかと思うのでございます。

第二に、ごみ処理の問題でございます。東京都の美濃部知事は昨年ごみ戦争への挑戦を宣言をしてごみ対策と取り組まれました。このごみ問題は、単に東京だけの問題でなく、今や館山市においても戦争状態突入の一步前の状態になってきておると思うのでございます。

館山市一万六千九百八十六世帯あります。このうち一万三千七百十余の世帯のごみの回収を現在行なっております。現在、このごみの処理状況を見ますと、焼却炉で年間処理するところの量が九、〇〇〇トンといわれております。埋め立てによるところの処理が三、五〇〇トンもあるという実態でございます。

毎年、館山市はごみの量が増加しております。一昨年から昨年に對しましては二、〇〇〇トン平均増加しておるわけでございます。昭和四十八年度は特に多く年間一五、〇〇〇トンものごみの量が回収されるのじゃないかということが推定されるわけでございます。

現在の焼却炉は、焼却能力は完全操業しても年間八、〇〇〇トンに限界だということがいわれてまいりました。すでに十年の耐用年数が近づいております。八、〇〇〇トン以上の焼却はほとんど不可能な状態でございます。今、埋め立てによるごみは回収の三分の一に達しております。本年度から来年度になりますと、これが約倍の七、〇〇〇トンから八、〇〇〇トンぐらいを埋め立てによらなければ処理ができないというのが現実だと思うのでございます。この点について、どのようにお考えになるのか。お伺

いをしたいわけでございます。

第三に、し尿問題についてお伺いいたします。館山市のし尿回収戸数は八千五百ぐらいで固定しておるようでございます。これは農家も水洗便所の普及によりこのような横ばいが続いていると思われのでございます。しかし処理量は毎年一、〇〇〇キロリットルぐらい増加しておるようでございます。年々便所の形式が近代化し、改良され水を利用するようになったからだと存じます。さらに、観光客の増加も考えられるわけでございます。

それにしても、年間二〇、〇〇〇キロ近くも処理場で処理しているようでございますが、今から十年前には年間一〇、〇〇〇キロリットルを処理するのに水が不足して困っていたわけでございます。建設して十年を経過した現在の処理場において、年間二〇、〇〇〇キロ近くの処理をするということは非常に困難だと私は思うわけでございます。

したがって、そのために神戸、富崎方面においては、すでにこの排水によるところの公害がもたらされておるといことがうかがわれるわけでございます。こうしたことを館山市が公然と行なっておるといことは非常に大きな問題だと思います。即刻改善していかねければならないと考えるものでございます。

二、三年前に市長は、水洗便所の普及を呼びかけましたことを記憶しております。現在では、市内には千カ所近くのものが普及されておるといふうに聞いておりますが、そのほとんどが営業用であり、一般家庭では水草槽と下水の施設がないためにこれ以上の普及がなかなか困難とされております。

しかし先般、水洗便所の清掃事業者から営業申請がなされて、

清掃審議会においてはこの申請が適切であるとの答申がなされておるようでございます。

しかし、現在の水洗便所の清掃と料金の面において市民の中から多くの不満が出されている現状の中にもかかわらず、市当局がいまだにこの水洗便所の営業許可を保留しておるといふことはどんな理由があるのか。このような事情とかみ合わせてお伺いしたいわけでございます。

このように、水、ごみ、し尿については一刻の猶予もできない緊急事態にあり、施設もすべて耐用年数を経過しようとしております。この施設の改善、建設には莫大な予算がかかることは御承知のとおりでございます。どのような見通しを立てておられるのか。詳細にお伺いをしたいわけでございます。

第二点目の問題でございますが、国体後のスポーツ振興についてお伺いをいたしたいと存じます。

若潮国体も近づき、準備も順調に進んでいることと思っております。あと一息努力してこの若潮国体を成功させたいと存じます。そこで、この十年の期待と準備により築き上げられた若潮国体の成功を国体終了後においてどのようになされていくのか。お伺いをいたしたいわけでございます。

まず、本年度の施政方針の重点施策五本の柱の第一に市民の体力づくりがございます。昭和四十九年もこの方針を継続していくのでしうか。最初にまずお伺いをしたいところでございます。予算においても国体予算は直接、間接にかなり多くのものが計上されております。それとともに、市民の体力づくりに対する施策も非常に強く打ち出されておりますが、この点についてはどの

ようにして今後継続していけるか。その意向をお伺いしたいわけでございます。

そうして、次の点については、具体的にどのようなことになるのか。お伺いしたいわけでございます。

体育協会、スポーツ少年団、ママさんバレー等の育成、強化費は来年度予算についてはどのように考えていくのか。お伺いをしたいわけでございます。

さらに、小学生の市外の大会、中学生の県外の参加費については現在P.T.Aとか、その選手の家庭において負担をしているわけでございます。この点については今後国体終了後の来年については予算化していく意向はないのかどうか。この点についてお伺いしたいと思っております。

さらに、花いっぱい運動でございますけれども、国体終了後におきますところの花いっぱい運動と町の美化運動は、このまま継続していく意向があるのかどうか。お伺いしたいわけでございます。

そして、国体後の来年度、柔道、剣道、ヨットの振興と体力づくりをどのようにしていくのか。この三種目は館山市で開催された記念すべき種目でございますけれども、この三種目の普及はどのように考えられておるのか。お伺いをしたいところでございます。

最後に、第三番目の問題として、市の開発と土地政策についてお伺いをいたしたいと思っております。

館山市の総面積は約一〇、〇〇〇ヘクタールということがいわれております。そのうち山林の占める部分は二二・八％、二、五

〇〇ヘクタール近くでございます。民間の土地は五、七三三ヘクタールあるようでございます。宅地が五七九ヘクタールで、山林が二、一七九ヘクタール、農地が二、二二五ヘクタールというふうに統計には出ております。

このうちで、ゴルフ場等観光施設や工場等にすでに開発されているところの土地は現在のどのくらいあるのでしょうか。先日、全員協議会で配布された開発事業申請書によりますと、八社から一、〇〇〇ヘクタールすなわち館山市の民間が所有する山林のちょうど半分にあたるところの土地の面積の開発が申請されておるのでございます。このことは、まさに革命的な土地問題でございます。

これに対し、宅地等開発事業に関する指導要綱をつくりましたが、市当局は、この要求に合致するならば、開発に賛成していく意向なのかどうか。この点についてお伺いをいたしたいわけでございます。

また、申請の出ている八社の中には、すでに多くの土地を買収をしておるといことがわれております。ちまたのうわさによりますと、山林、原野の五〇%以上がすでに土地業者等により買収が済んでおるといようなことまでいわれておるわけでございますが、この点についての実態をどのように把握されておるのか。お伺いをしたいわけでございます。

私は、この点を強調しますことは、館山市の土地の大部分が館山市以外の人に所有されるということ、館山市民が館山市民として土地を持たないということになり、すなわちこのことは、館山市民は植民地になってしまうというような現象が出てくること

を危惧するからでございます。

市民というものは土地があり、そしてそこに住む人がいてはじめて市民であり、そしてそこに自治体が形成されるのでございまして、このように土地が館山市の人のものでなくなるということは、館山市の自治体そのものが根本的に私は崩壊するおそれがあるからであります。

また、現在館山市では職権によるところの土地転用が多くなされておるといことを伺います。この職権による土地転用は、公共の福祉に寄与される立場からなされなければならないものでございまして。ところが、年間三千件に達するところの職権による転用は、目的が土地売買により農地の宅地化、山林化、雑種地化への転用であり、そこには明らかに売買の目的が含まれており、正規の転用手続では許可にならないということを回避するための虚偽、悪意を持ったところの手段として用いられておるところの節が多々見えるわけでございます。

この点が単なる憶測ではなく、現実にはこのような形でもって職権転用がなされておるといことについては全く憂える点でございます。刑事問題にも発展しかねない問題であるわけでございます。したがって、この内容については十分調査をし、その実態を明らかにしていただきたい。

職権によるところの転用により農民の土地が失われ、農地法が根本から否定されていくわけでございます。われわれは法律を守り、農民を守り、市民の生活を守らなければなりません。このようにことが館山市独特の転用方法だということで農地委員会が無視されて行なわれておることについては、私も議会人の一員と

して見過ごすわけにはいかないわけでございます。き然たる態度でもって市はこの解決にのぞんでいただきたい。そして、その内容を市議会議員に対しても報告していただきたいことをここに要望する次第でございます。

以上、質問を終わります。(拍手)

(市長職務代理者助役 畠山 伝君登壇)

○市長職務代理者(畠山 伝君) 辻田議員さんの御質問にお答え申し上げます。

その前に、ただいまは市長に對しまして御見舞のおことばをありがとうございます。おかげさまで、その後の経過もたいへんよろしいようでございますが、皆さま方の御好意を早速市長に伝えたいと思います。

第一問の水道、ごみ、し尿問題につきましての一番、水問題の見通してございますが、水道におきます本年夏の水事情は、全国的な異常渇水のために各地の水道がたいへん深刻な状況にありますことは御指摘のとおりでございますが、本市内の水道の夏季の給水状況でございますが、三芳水道企業団水道は平常どおりの給水を行っております。

市営水道におきましては、水源不足または給水能力以上の需要増あるいは地理的事情で旧西岬、宮城水道管内でやむなく一時時間給水を実施いたしました。その後避暑客等の減少に伴いまして水の需要量も平常化してまいりましたので、西岬方面の水が宮城水道へ補給できる状態になりましたので、八月二十二日から時間給水を解消いたしました。現在、各水道とも平常どおり給水をしておる訳でございますが、今後も特別の事態が起きない限り心配なく

給水できる見込みでございます。

また、房州水道におきましては、市営水道とほぼ同じような事情から一部高台地域等で断水を生じましたが、現在では一応需要も落ち着きましたので、現状のままでこれ以上悪化しない模様でございます。

以上の状況からいたしまして、本市におきましては、主として館山地区の一部から西岬地区にかけての地域が状況によりまして夏季給水に一時支障を生ずるといえるわけでございます。

この対策といたしましては、単に夏季のみならず、将来の水事情を考慮いたしまして、水道事業の円滑なそして合理的運営をはかるために、御質問でございますように、民営水道の市営一元化及び水源確保に合せて施設の改良を行なうこと等が当面急を要する課題と考えております。

民営水道の市営一元化のことにつきましては、去る三月市議会におきましてすでにこの方針を打ち出しているところでもありますし、さらに過日水道事業審議会も発足いたしましたことでありますので、今後審議会の意見を聞きながら慎重を期してなるべく早い機会にこの実現をはかってまいりたい所存でございます。

次に、水源確保等につきましては、市内作名地区に大規模のダム建設と広範囲の施設の改良を計画いたしましたので、本年度中に用地買収を行ない、来年度本工事着工の予定で目下この事業の早急実現に鋭意努力中でございます。

いづれにいたしましても、この事項はたいへん重要課題でございますので、今後一そりの御指導、御協力をたまわりますよう、お願い申し上げます。

次に、第二点のごみの処理の現況と見通しと改善についてでございますが、昭和四十八年度の四月から七月までのごみの収集量は五、一五九トンでありました。この処理は御案内のように焼却炉による焼却方法と、燃えにくいものにつきましては焼却灰とともに埋立地を借り上げて埋め立て処理する方法で処理しております。

埋立地は佐野と西長田に平面積四、〇〇〇平方メートル、容積で四〇、〇〇〇立米メートル借り上げておりますので、二カ年程度は埋め立て可能と推定いたしますけれども、そうした面でも一そのの努力を傾倒いたしたいと思いますが、焼却炉の熱効率を一そう上げて有効に利用することについても現在研究中でもございますが、御承知のように増加するごみを完全処理するためには施設の改善をはからなければなりませんので、現在の場合増設するなり、あるいはまた新たに新設なり検討を進めておりますが、いずれにいたしましても、こうした施設をする土地を確保することがきわめて重要なことでございますので、鋭意検討してまいりたいと思います。

次に、し尿処理場の現況と改善の見通しでございますが、藤原処理場の能力は四五キロリットルの設計で設計されたものであります。現在では建設当時に比しまして能力以上に投入しておりますが、現情でございます。投入の投下量につきましては、消化促進剤を使用するなどして浄化槽の浄化能力を促進しておりますけれども、一方処理用水につきまして不足をきたしておりますので、その処理用水の取水につきまして早急にその実現をはかるべく鋭意進めておるわけでございます。

なお、御承知のとおり現在広域市町村圏におきまして、処理場の建設計画がされておりますが、これが完成されれば処理能力以内で処理できるようになります。なお、既設処理場は年数を経っておりますので、その改善策等につきましても考慮してまいっておりますので御了承いただきたいと思います。

なお、し尿浄化槽の清掃業につきましても、市長も現在真剣に検討しておりますので、合わせて御了承いただきたいと思います。

次に、二の国体後のスポーツ振興についての体育協会、スポーツ少年団、ママさんバレー等の育成、強化でございますが、館山市におきまして体力づくり、体育、スポーツの振興を市政の重点施策としておりますので、この成果につきましては御承知のとおりであります。育成面につきましてはスポーツ少年団が五十七団、婦人スポーツクラブが四十四団、壮年剣道クラブが五クラブとふえまして、体育協会も十六部となりまして、活発な活動をしていただいております。

これらのスポーツクラブの育成につきましては、国体を契機に盛り上げてきておりますので、来年以降につきましても予算措置等につきましては十分配慮していく所存であります。

強化面につきましては、底辺の拡大に伴いまして、先般国体百日前を記念して行なわれました安房、鴨川、館山三郡市民体育大会で総合優勝をしておりますし、中学校では県下総合体育大会で男女総合三位というきわめて高い競技水準を発揮しておりますので、育成、普及面と並行いたしまして、強化面につきましても配慮してまいりたい。かように考えております。

次に、社会体育の強化についてでございますが、小、中学生の

市外、県外大会の学校教育活動としての児童、生徒の参加につきましては、文部次官通達によりまして規制されておりますことはご存じのとおりでございます。

また、学校教育外における競技会の参加につきましては、青少年運動千葉県連絡協議会で承認されました範囲で開催されるものでありますので、これ以外の大会につきましては、参加者個人と保護者の責任について参加することになっております。ただ、県で優勝いたしましたして関東大会あるいは全国大会への出場権を獲得したものに出場することを教育委員会が認めた場合には、激励賞という形で配慮してまいりたいと考えております。

次に第三、花いっぱい運動についてでございますが、国体を契機といたしまして花いっぱい運動、町をきれいにする運動が市民各位の御協力によりまして進めておりますが、館山市は観光地でもありますので、国体終了後も市民運動として強力に取り上げてまいりたいと考えるわけでございます。

この運動の推進にあたっては、地域運動あるいは団体活動として関係者の絶大な御支援をいただきたいと思いますと考えております。

また、学校教育の一面といたしても、児童、生徒を通じてこの運動を盛り上げて父兄への浸透をはかっていきたいと考えます。

もちろん、行政の立場から市民の御理解、御協力をいただきながら、豊かな環境づくりを積極的に進めるとともに、観光地として四季観光の推進につとめまして、特に駅前ロータリーの美化海岸清掃の実施、フラワースライン沿道の植栽等も継続いたしました、市民各位と行政一体となって市民運動として進めてまいりたい

いと考えております。

次に、国体後の体力づくりについてでございますが、柔道、剣道、ヨットの振興とこれに対する継続的な重点予算措置に関する御質問でございますが、市の地域的特性や現況をふまえながら、市民のスポーツ需要の多様化に即した予算について考慮してまいりたいと考えるわけでございます。

次に、市の開発と土地施策についてでございますが、最近民間企業によります大規模な山林開発計画が目立ってきておりますことは御指摘のとおりでございます。

本市におきましては、目下協議申請が出されているもの、さらに巷間うわさされておりますもの等推計いたしますと、相当の数に上る状況でございます。

こうした傾向につきましては、将来の土地問題にとりましてもまた自然環境の保全あるいは資源保護の上からもきわめて重要なことでございますので、市といたしましては土地対策の面から十分検討いたしまして、無計画な乱開発などが行なわれないようにその指導、調整をはかり、慎重に対処してまいる考えであります。が、なお相当額の開発につきましては市議会の皆さまにおはかりいたしまして、御意見を十分取り入れました上で、善処してまいりたいと存じますので、よろしく御了承願いたいと思っております。

次に、職権によります農地の地目変更に関しましては、不動産登記法のためまえば適法ではありましたが、農地法の趣旨にそわない事例が出ていますようでございますので、農業委員会でもこの問題を取り上げまして調査しましたが、後刻これは資料といたしまして印刷して御配付申し上げるような結果が出ております

ので、引き続きこの改善方につきましても研究してもらっております。この細かいことにつきましては、後刻配付いたしたいと、かように考えますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、申し上げます、簡単ですが、答弁にかえさしていただきます。

○九番（辻田 実君）　まず、全体的にはおおむね内容がよくわかりました。

そこで、三点ほどについて、ちょっと食い違いがあるようでございいますから、その三点について御質問いたしたいと思ひます。

ごみ処理場のごみ処理能力が現在五、〇〇〇トンぐらい処理しておるといふこととございいますけれども、市の統計ですか、見ますと、四十六年ですでに八、〇〇〇なにがし、九、〇〇〇トン弱になっております。大体ことしの推定はどのぐらいに達する見込みか、その点についてわかりましたら、教えていただきたいと思います。それが第一点。

第二点目は、この小、中学生の県外大会参加の問題でございいますけれども、ことし中学の柔道さらに陸上競技の選手、さらにソフボールのチーム等が県外へ出張、県を代表して参加したわけとございいますけれども、それらについてはかなり自己負担というんですか、学校等の関係者が資金繰りに奔走されておるような状態だったわけとございいますけれども、この内容、状況というものを適切に処理されておるかどうかという等とは、大体どのぐらいの予算がかかったのか。そして、県外に出た選手に対してPTA乃至学校でどのぐらいの予算化をしてそれを支払ったのか。市のほうとして激励費としてどの程度出したのか。その点について御

説明をいただきたいと思います。

それから、三番目の開発問題でございいますけれども、相当数の開発については議会とも相談していきたいといふこととございいますけれども、大体の目安はどのぐらいのことかというわけでございいます。少なくとも今度出るところの八社の中で一番小さいので三三ヘクタール、約十萬坪というのがありますけれども、少なくともここに出ているものは、ある程度申請出す場合には相談をしていただけなのかどうか。その点についてお伺いをいたしたいと思ひます。

それとともに、職権転用の件について今研究されておるといふこととございいますけれども、この点については農地法さらに先ほど私が申し上げましたような点について、これが売買を目的として、そしてさらにその上に転用することによって土地価格、土地の使用目的を変更させる目的を持って転用されるというケースがあった場合には、これは私は単に農地法だけの問題ではなくて、それ以上の問題に発展し得るものが私はあるといふふうに思います。

現に、この問題につきましては、県議会等で問題になりました。県北の印旛郡下におきましては、刑事問題として若干新聞紙上をにぎわしたことも私は記憶に新しく覚えておるわけでございいます。大体、この点について私は市として農業委員会に対し、さらにはその関係の法務局、県の農業委員会等に対してもある程度今申したような懸念される問題については嚴重対処されたい旨の要請なり、そういうようなものはできないのかどうか。この点についてお伺いをいたしたいと思ひます。

〇衛生課長（館石勘治君） ただいまの御質問の第一点でございますけれども、五、一五九トンの収集量は、本年四月から七月までの総量でございます。

それから、今年どのぐらいの見通しになるかという御質問でございますけれども、四十七年度の収集総量は一四、三六一トンになっておりますので、過去の実績からまいりますと、大体一五％程度の増量が見込まれるわけでございますので、四十八年度は約二〇、〇〇〇トン近い数字になりはしないかと、こう推定しているわけでございます。

〇体育課長（川上賢爾君） 中学生の県外大会に関する問題でございますが、柔道あるいは陸上等につきましては、体協傘下の各部のかんりの応援をいただいております。

そのほかに、教育委員会といたしましては、小、中体連に委託をいたします予算の派遣費の中から一部、具体的には一人につき千五百円の激励費を差し上げる。このことにつきましては、当該学校のクラブ顧問の部長さん方と予算編成の時点では十分話し合いました了解をしておりますし、今回の出場校の校長さんと小、中体連との間で教育委員会も中に入りまして、その点につきましては事柄につきましては協議をいたしまして参加をしているというのが現状でございます。

しかしながら、これにつきましては予算的に足りません。したがって体育後援会とか、あるいはPTAとか、保護者の負担の形でこれが参加をしておるというのが現状でございます。

なお、今回県の代表として参加したのは陸上競技、これがNHKの主催で行なわれたものでございますが、二中の山本多枝子

さんが全国一位になりました。ソフトボールが関東大会で優勝をいたしました。これは四中でございます。そのほか柔道が二回戦で破れましたけれども、いずれも今申し上げましたような後援の中で派遣をしておるというのが実状でございます。

なお、中学生の県外大会につきましては、これを無制限に予算化するということにつきましてはできませんので、先ほども御答弁があったように激励費という形で単価を上げるような形で検討してまいりたい。このように考えております。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 開発の問題でございますけれども、先般の協議会でお示ししてございますあの程度以上の坪数に対する開発につきましては、できるだけおはかりしてまいりたい、単に何坪以上ということじゃなくて考えてまいりたい。そういうふうに考えております。

〇農業委員会事務局長（岩崎一郎君） お答えいたします。

登記官の職権に基づく地目変更の件につきましては、再三私もこれらにつきましては事前に申請内容に対して私どものほうに連絡を求めるように、出先機関であります法務局との話し合いは継続してございます。

なかなかいい分がございまして、それぞれの立場、立場があるようでございます。先ほど辻田議員が申されましたような件数、そのようなトータルが得られましたにつきまして、後刻御配付申し上げますけれども、それらを緊急容易ならざる事態があるというところで、去る七月三十日臨時農業委員会を開催しまして、その対策を、改善策につきまして御討議願ったわけでございます。

何とかこれを農民の利益を確保するという立場から野放しのよ

うな事態は避けてもらう方法はないかということで御検討願ったわけでございます。やはりこれは法務局の理解と協力以外にこれは現在のところ打つ手はございませんので、強力に法務局との話し合いを持たれたいということで、八月三日以降数回にわたりまして法務局との折衝をはかっております。

ようやく法務局側といたしましても、事態の容易でないことを理解されまして、それと中央あるいは県段階におきますこの対策につきましてそれぞれの話し合いに入っておるようでございます。県あるいは千葉地方法務局こういった方々の合意に達する、多少時間がかかるようでございますけれども、私も出先あるいは地元の農業委員会こういったものは、それなりの行政でございますので、協力体制が持たれないものかどうか。その面で話し合いしておるわけでございます。

当法務局の局長さんのおっしゃられますことには、大体九月頃より文書をもって地元のそれぞれの農業委員会に申請案件ごとに文書をもって照会する。各地元の農業委員会につきましては、それにつきまして三日乃至四日以内に実地調査の結論を得ましたものを文書をもって法務局に回答する。このような大体の線でございますが、こういうことによりまして、何とか話し合いをしていきたいということでございます。

このことにつきましては、来たる八月二十九日でございますが、支局側と私どもと、それから関係登記管内の町村、四町村これらと農業委員会と最後の技術的のつめを、そういった技術面にわたるものがあるかと思いますが、そういった話し合いに入る段階に入っております。

少なくとも、是非々々主義でまいりたいと私も考えておりますので、どなたが見ましても農地でなくなったものはこればやむを得ない。農地法あるいは不動産登記法そのものにつきましても現況主義でありますので、そういったものはやむを得ないにいたしました。先ほど辻田議員さんおっしゃられたような内容のは、できるだけ私どもの委員会の手を通じて適法に処理なさるような今後指導を、それらの文書による、文書の間において私もは指導してまいりたい。そのような改善策を考えて現在法務局と折衝中でございますので御報告申し上げたいと思います。

○九番（辻田 実君） もう一点、お伺いするわけでございますけれども、先ほど質問をいたして通告の中から読み取れなかったかも知りませんが、この春に水洗便所の清掃業者から事業許可の申請が出ておるようでございますけれども、それについては清掃審議会にはかり、そして清掃審議会においては、それはある程度許可してもいいだろうという答申がなされたというふうに伺っております。その経過はどうなのか。

そして、その後において清掃審議会の委員長に私聞いたんですが、あれはもう出ているんじゃないかという形の回答を得たわけです。そのように答申が出たからということをお願いいたんですが、その後相当の月数がたつにもかかわらず、いまだにそれに対する返答が許可、不許可のあれが出てないようにかがわれまうけれども、この種の問題については審議会のそういう審議があったのち相当の期間を経なければおかしいのか。許可する、しないは別にしていっ頃結果が、市長は判定してこの報告するのか。その点についてどのぐらいの時間がかかるのか。その時期につい

て見通しを若干お伺いしたい。前段の委員会の経過が正しいかどうかも含んでお願いしたい。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） 先ほど私、市長現在検討中でございますというのを申し上げたわけでございますが、この問題につきましては市長も答申もいただいておりますし、やはりその許可の時期につきましても検討を加えておるわけでございますが、いづれにしても、市民のそうした環境衛生というふうなことで円満に市民の方々に実施してまいることでございますが、というふうなことで、現在市長もいろいろ検討いたしておるところでございますので、時期的にちょっとただいま申し上げられませんが、早くその結論は出すようにまたよく市長にも報告したいと思えます。そういうふうな状態でございます。

○九番（辻田 実君） 終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 九番議員の質問を終わります。

次、三番議員 流山源次郎君御登壇願います。

（三番議員 流山源次郎君登壇）（拍手）

○三番（流山源次郎君） 私は、館山市における水産行政の汚染魚及び海上投棄、工場廃棄物の対策について質問を申し上げたいと思えます。

御承知のとおり、六月の下旬に第二水俣病及び有明海の海水汚染が次々に新聞紙上をにぎわしておりまして、それに対象いたしまして、厚生省に食べられる魚の最低限度の食卓保護というものが発表されたのでございます。

これが、不幸にいたしまして、日本全国民の間に魚に対する不信といえますか、魚に対するおそろしさというべきものが浸透い

たしまして、そのあたりが地元館山水産関係においても当然あらわれてきたのでございます。

それで、館山船形といたしましても、大きな水産市場でございますところのカツオのえさ自体は、カツオの値下げ等によりまして六月、七月の最盛期におけるところの水揚げをあげるところの期間において二割方のカツオ船に対するサービスを行ないダウンする。また、町の業者は魚の買い手がつかないために二週間以上の船どめをするという大きな被害を受けたのでございます。

また、それに対しまして、市民といたしましても今まで食べておった魚は食べていいのか、わるいのか。非常に不安を与えたのが今度の事件でございますが、それに対しまして館山船形漁協より市の水産課を通じて、市に対して市としても何とかこの対策を市自体の名前において市民を安心させるためにも、また漁民の苦痛を救うためにも何とかしてもらえないかという申し入れをしたのでございますが、一応市の態度といたしましては、県の調査計画を見て、待つて、それによって市の対策を立てるといふ結果に逃げられましたが、その後の対策はどうなっておるか。お聞きたいと思います。

二といたしましては、県の安全宣言がこのたび出されたのでございまして、この安全宣言からはずされた魚は何と何か。また、市としても一応県を信頼し、県の安全魚対策に何もかも一切をまかしておるようでございますが、その安全対策に対する県の措置に対して、今後とも全面的に信頼を持つものかどうか。

第三といたしまして、内湾漁民が旭ガラスほか三社に対して海上封鎖を行ない、これに対しまして市としてはどのように漁民及

び消費者の安全対策を考えられたか。

また、この重大な問題があったにもかかわらず、市としては水産振興審議会すらも開いてそれを諮問し、その市としての対策を取られなかったということですが、これはどういう原因であるか。

第四点といたしまして、工場廃液が館山市沖合いに投棄されておるといふ風聞がわれわれの耳に伝わってきております。その点については市としては現況をどうつかまえておるか。これをお聞きしたいと思えます。

次に、この私の質問に関連いたします二つの問題を発表して討議の参考にしたいと思えます。

その一点といたしましては、旭ガラスほか三社に対する海上封鎖の、私は八月十一日、十二日の海上封鎖の指揮を命じられまして、旭ガラス沖四、五〇メートルに投錨する船に乗船したのでございますが、そのときに非常に驚いたことは、その周囲から発生する悪臭というべきものが、そのために食事さえのどに通らないというものでございました。

また、海中からはひっきりなしにメタンガスが発生して、夕刻になればカの大群がわれわれ封鎖漁民を襲う。

さらに、その上にきつかったことは、われわれ国民の味方であり、国民の安全を保ってくれるはずの海上保安庁の巡視船しきねより、旭ガラス等は火気厳禁の工場であるということで、海上四、五〇メートル沖合いにあるところの封鎖船団に対しまして、たばこを吸ってはいかぬということに対し、また海上に物を捨てることはいかぬということで注意され、禁止命令が出された。それに

対して二十四時間ぶっ通しの監視をされたということでございす。

それから、いま一点といたしましては、魚汚染に関する抗議問題に対しまして、これは特にPCBを多く流しましたところの日全養殖業株式会社でございますが、この会社から公害封鎖に対するところの抗議に対して回答が出されましたが、その中の一部を読み上げてみたいと思えます。

魚汚染に関する抗議要求事項に対する回答。このたびの御抗議に対して私どもは謙虚にこれをお受けし深く反省し、心からおわび申し上げるとともに、誠心誠意事態の解決に努力をする決意でございます。今までPCBを使用してきた多くの企業と同じように、当社においてもはじめはその有害性について不明のままに使用してまいりましたが、今やそのことが明らかとなり、PCB公害がやかましく叫ばれるようになった現在、他社についてもすでにその使用を最近までに中止されたにもかかわらず、当社においても使用中止の計画はつとに立案しながら、その実施の時期が遅れたことについては弁明の余地がありません。また、処理設備の不備と管理の不行き届きによる不良排水の放流についても同様であります。

私どもは、この事実を率直に認め、御要求の各項目については誠意をもっておこたえ申し上げるとともに、その実行を誓います。以上でございます。

(市長職務代理者助役 嶋山 伝君 登壇)

〇 市長職務代理者助役(嶋山 伝君) 流山議員さんの御質問にお答え申し上げます。

水産行政における汚染魚及び海上投棄工場廃液対策についてでございますが、その第一点でございます。

おおせのように、館山船形漁協ばかりでなく、他の漁協からも汚染魚対策につきまして申し入れがありました。しかし、市内には今のところ心配されるほどの汚染源となる工場等はなく、たまたま他ですでに汚染された回遊魚が当地区で魚獲されたのが検査の結果判明いたしました。環境庁の新聞報道等で問題視されてまいりました。また、他の魚も汚染されているのではないかとというような憶測から荷受け機関やら消費者にも敬遠されて、漁家経済にも影響が出たものと思いますので、この問題は市の立場で解決し得ないために、国、県の段階で措置していただくべく、早速当地で魚獲された魚類の検査と業者の救済対策を県に要請いたしました。

そうして、県の対策を確認した上で、市としての態度はいかにすべきかを考えることといたしました。が、県当局は早くからこの問題に取り組みまして、すでに県下全般的な問題であるという点とで、比較的多く消費されております一般大衆魚を対象に三十種を選び、地域別に二百三十四検体を採取いたしました。検査を実施されることになりました。汚染対策はその検査結果を元に検討するということで検査が急がれたわけでございます。

その間、漁業会は補償問題といたしまして取り上げまして、抗議集会や有害物質放流工場に要求折衝を行ないまして、県にも強く要請を続けた結果、県議会でも取り上げて臨時県議会を開催いたしました。その対策が論議されたのでございますが、もちろん市議会でも意見書の問題といたしまして取り上げまして、その筋

へ要請いたしましたことは大きな効果があったものと敬意を表する次第でございます。

ところで、漁業者の要求は、有害物質排出工場に対しまして県知事立ち会いということで補償額十一億円で協定がつけました。

また、検査結果は、大佐和沖から採取したスズキだけが再調査する必要があるというようなことで今後の調査にゆだねました。他はほとんど安全であるとの結果が判明いたしました。知事宣言が行なわれまして今月の十八日に正式に県から文書で連絡がありました。

また、県におきましては、海洋汚染による被害、水産業緊急融資措置要綱を決定いたしました。有害物質による魚介類の汚染の影響を受けた県内水産業者に対して経営安定のための緊急融資を行なうことになりました。融資限度額一人三百万円、年利八%でうち三%利子補給をする等、融資条件をきめて実施することになったのであります。

ところで、市といたしましては、検査結果の安全宣言文を本月の十八日に受けましたので、たまたま本月二十日開催されました経済委員協議会には早速御報告いたしました。が、議員の皆さまにも一日も早く御報告申し上げて、また水産振興諮問機関もございまして、市の対策について相談と考えておりましたが、報告の遅れや相談の遅れたことを申しわけないと思っております。

次に、第二点でございますが、今回県で魚類三十種、二百三十四検体を対象に検査いたしましたのは、日常最も多く摂取されております大衆魚を選んで検査したわけでございまして、県内に出回る全魚種ともなりますと、検査機関のことからかなりの日数と

容易じゃございませんので、今回の検査からはずされました魚類につきましても、今後二次、三次と検査を進めるとの方針でございます。

なお、県の安全対策行政には全面的に信頼はいたしておりますが、満足しているわけでもございませんが、今後ともそれぞれの協議会、諮問機関等もございまして、必要に応じまして御意見等を承りながら検討して考えてまいりたいと思っております。

次に、第三点でございますが、海上封鎖、その他漁業者あるいはその代表の行なわれました運動は本当に切実な問題でございますので、水産行政といたしまして何よりも重要なことでありますので、たえず漁協と連絡を取りまして、組合長会議を持ち、また県並びにその出先機関とも打ち合わせいたしまして連絡をし、さらに市から県議会にも傍聴に職員を派遣いたしましたその情報をつかみました。そして、今回の県内産魚類のPOB、水銀等県の検査結果を待っていたわけで、先ほど申し上げましたように、この十八日にその検査結果による宣言書を正式に受理いたしました次第でございますので、それらを元にこれから必要に応じまして御相談を申し上げる考えてございますので、御了承いただきたいと思います。

第四点でございます。工場廃液の館山沖合に投棄されておるといふことの件でございますが、工場廃液を館山市沖合に投棄されているとお話につきましては、昨年末に洲の崎地先から布良地先にかけて、品名不明の油類の入ったドラムかんが三十三本海岸に漂着いたしました。

当初、漂流物といたしまして取り扱いべく考えましたが、海上

保安本部に連絡いたしましたして内容を調査願いました結果、工場廃液の産業廃棄物の不法投棄ということになりました。取り扱いを保安庁にお願いしたことがございます。

なお、海洋汚染防止のために、市では本年七月に文書をもちまして、廃棄物の海洋等の取り締まりを第三区海上保安本部長並びに東京都知事、神奈川県知事宛要望をいたしましたところ、各機関ともそれぞれ監視船等をもって取り締まりに努力しており、今後とも要望にそうよう努力する旨の回答がございましたが、特に海上保安本部におきましては毎日巡視艇、航空機をもって不法投棄のおそれある海域の監視を行なうほか、随時一斉取り締まりあるいは違反船に対する特別監視を実施いたしましたので、不当投棄船発見捜索につとめておりますが、先ほど申し上げました平砂浦海岸に漂着いたしましたドラムかんの投棄者の検挙をはじめ、過去一カ年間四件の事犯を検挙しております。

また、廃棄物廃棄船に対する講習会、指導、文書の送付等関係法令の周知徹底や、巡視船の立ち入り検査をひんばんに行なう等して、また関係機関、民間の協力を得て通報体制の整備、強化をはかっているところでございますので、当市といたしましても、今後漁業者の協力を得て不法投棄の発展と取り締まりの強化につきまして、海上保安本部の連絡を密にして防止対策につとめてまいります。

以上、申し上げますが、簡単でございますが、答弁いたします。

○三番（流山源次郎君） このたび、県より発表されたところの安全宣言魚ですか、この水銀とかPOBの安全濃度と、それから厚

生省がこの基準だったら〇・三 PPM乃至〇・四 PPMの場合には魚をこれだけ食べるといふところのものを発表されましたが、その開きですね。PCBのPPMの開きは、そういうものは大体どのぐらいございますか。

○水産課長（谷貝茂生君） 今回、県で検査いたしましたPCB、水銀の検査の結果でございますが、魚といまして三十種、二百三十四検体でございますが、特に多く摂取する大衆魚といふことで千葉県全部の区域の要所、要所の港から魚の多く取れますものを選んでやったわけでございますが、館山市としてこの検査の中で特に該当しているものは、イカとか、マイワシ、セイゴ、ムツ、トビウオこういったものでございますが、大体内容を見ますと、多いもので〇・二二それ以下になっております。

県下全般的に見ましても、大体〇・三以下でございますして、五検体ばかりちょっと水銀の濃度でもって疑問のあったものは再調査されました。結局、全検査のうちから再調査に取りかかっておりますのは、大佐和沖のスズキ一件だけでございます。

○三番（流山源次郎君） ただいまの水産課長から報告されました水銀及びPCBの許容量でございますが、私もたまたま調査した結果なり、また先日の経済委員会の方より一部県からの発表されました安全宣言魚の表を見せていただいたんですが、それを見た場合には、一応館山湾とか、そういうところで取れた魚は、今までどおりのものを食べてもさしつかえない。こういうことがはっきりしているわけですね。

それで、私も結局水産課なり、市当局に対していいたいことはその館山湾では幸いなことに、去年の暮から正月にかけてボラの

PCBの汚染がございました、それに対してよそに先がけて非常に問題があったので、それに対する調査を依頼したのでございます。

その調査結果が二、三カ月遅れまして、三月の下旬頃に発表になった新しいデーターがあるわけなんです。ですから、私なんかとしては地元の漁民及び漁業関係者また市民といいたしても、館山市として最近にそういった新しいデーターをつかんでおるんだから、これは当然県あたりに対しまして新しいものに対しての調査は十分まかしてもいいと思いますが、館山市独自でそういったものを元にして、広報なり、また市長名でそれを安全だということ流されなかったかという疑問が私たちとしてあったんですが、ございますが、こういう問題に対して市民に対するものは、市民を守るんだという立場であったなら、もう少し県の問題はそっちにして市自体でそういったものを立てるお考えはないかどうか。再度お聞きしたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） 今回、この十八日に検査結果が細かく通知を受けておりますので、今後早速広報あたりに載せましてPRにつとめてまいりたいと思います。

ただ、前にボラのときからこれは出発しておるわけでございますが、それらも意見等も聞きましたけれども、それだけではならない。全般的にやっていかなくちやならぬということがございまして、やはり科学的判定に基づいて発表しなければならぬという慎重な態度を取り過ぎました点が、あるいはPRの不足というところにつながったかもしれませんが、今後広報等にも掲載いたしましたPRにつとめてまいりたいと思いますので、よろしく。

〇三番（流山源次郎君） わかりました。実は、隣の隣の町の鋸南町でございます。鋸南町は、その公害さわぎが出た。県の発表が出たという前に、平田町長さんの名前でステッカーをつくりました。それを各食堂とか、旅館とかそういったところに、お客が魚に対して安全だという目のつくところに、鋸南町で取れた魚は絶対安心だという町長名でやっておるんです。

私がいうのは、別に市に対してどうの、こうのいうんじゃない、市が、結局市民の問題だからやさしい思いやりがあったら、一早く鋸南町と違ってデーターがあつたんですから積極的にやってもらいたいと思うんです。

結局、今度から安全魚の宣言がされたのでございますが、それに対して広報なり、またそういった勝山方式に各食堂とかそういうところにステッカーを配付する。そういった考えがございませうかどうか。

〇水産課長（谷貝茂生君） 今後、前向きな姿勢でもってPRいたします。

〇三番（流山源次郎君） 先ほど、市長代行の助役から県を頼りにしていろいろ調査をするという話も出てその内容もわかりました。現在の館山の場合としては調査機関も徴々たるものであって、そういったPCBの汚染の調査もなかなかできない。こういうことを勧案すれば当然だと思えます。

ただここで、私なんか水銀とかPCBの問題を取り上げるについていろいろ調査をして見ますと、これは私自身がはっきりとつかんだものでないですから間違いがあるかもしれませんが、実は旭ガラスが昭和四十五年に市原の沖に進出してくるときにも、

県としては現在の水銀法でなくて隔膜法による工場をつくれということを指摘してあったそうでございます。

ところが、旭ガラスにおいては、それを県の要望を入れないで現在の汚染魚を起こした大きな問題である水銀法の製造法を取り入れておった。そうして、大体平均の利益が現在の水銀操法でやった場合には、一年間に四十五億の利益があるそうです。それを現在アメリカで行なわれておりますところの水銀を出さない隔膜法の操法でやった場合に年間二十億、大体半分以下の利益にダウンしているということがいわれております。

これは、確かな筋から聞いたんですが、私としては名前は一応伏せますが、今度の県の安全宣言におけるところの先ほど水産課長から話がありました大佐和、天羽沖のスズキでございます。

この水銀が〇・六五PPMあって県としては再調査を行なうというお話してございますが、これはもう漁連もはっきりした筋から流れておる問題は、実際は一・〇八PPM、倍近いものがあるんだということをいわれておるんです。それは公然たるもので県としてはどうしようもなく、一応〇・六PPMで発表したんだということが流れておりますが、そういう話も有力な説があるんです。

それから、旭ガラスの今度の公害防止に對しまして、それに対するところのわれわれ抗議したんですが、最初のときは県の水産課なり、県の公害課なりは、旭ガラスからたれ流すところの水銀の量は〇・九PPMであると。だから、旭ガラスあたりは少ないんだという発表をしたんですが、これも漁連なり、各県下の組合長が立ち会って調査した結果においては、何と驚くべきことに六

十八倍の六・二五PPMが検出されておるんです。そういったことを私なんかは聞いておるんですが、それからいま一点、非常に驚くべきことは、東京湾内のある漁協はスズキを取ったんだけど、東京の市場に出荷したけれども、今度のさわざでだめだということで却下されて、その魚を返されたんです。

そのときに、ある漁協は、旭ガラスに対してこの魚を買い取れということで買わしたんです。本来ならそういう危険な魚だったら、買ったものだったら地面を掘って埋めるなり、または廃棄すべきなんです。それを自分の使っておる工員に全部にたでやるから持っていくということだったそうです。各工員が喜んで持っていくって非常においしかったという笑うに笑えない事実があるんです。汚染された魚だったら工員に食べさせるものではないんですが、それが大体何トンか、トン数は忘れましたが、ある漁協から出たものを旭ガラスでは工員に持っていくといったために工員が食べた。非常においしかった。それは、われわれ調査にいったときにある工員から事実聞いたんです。

ですから、私なんかは、ただうのみに県々といって、県を頼りにすることも大事ですが、その前に館山市においては水産振興審議会というものが市長の諮問機関で、館山市の漁協関係の有力の機関があるんです。それに対してなぜ一早く審議会を開いてもらえないのか。

今後また、現在も金の補償によって解決してしまっただけで、まだ実際問題は水銀は流れておる。海に流さなくても、岡に捨てるといっても、メチル水銀は蒸発するおそれがあるので、今後こういう危険性が出てくる。市としては水産振興審議会を活用して

そういった諮問を取り入れて、館山市の漁民とか市民の安全を考えるお考えはないかどうか。教えていただきたいと思っています。

○水産課長（谷貝茂生君）　ただいまの御質問でございますが、水産振興審議会にかけないということではなくて、先ほど助役のほうから御答弁申し上げましたが、十八日に科学的な根拠に基づいて正式文書を受けたわけでございまして、この対策につきましては、これでもう解決ということじゃなしに、今後も続けてやっていかなければならない問題でございますので、市の意思決定に対して審議会の皆さんの意見等も資料をいさ少し集めたらということと、それから県で今回の汚染対策につきましまして、補償は直接旭ガラスとか等に対してきまされたわけでございますが、県としまして、汚染に対する緊急融資対策というものを打ち出しておるわけでございますが、これらにつきましても、漁業者としてはあくまでも補償一点ばりではないとおりますので、融資についての要望まだ出ておりませんけれども、加工業者等に対する援助、そういったこともございますが、これもやはり請求法に基づく加工業者がたまたま信用漁業基金協会に加入してないということやら、保証料等の問題もありまして、それについての検討を行なわれておる段階でございますので、できるだけその機関を通じて御相談申し上げるにつきましては、いろんな細かい資料をはっきりとかんだ上で御相談をというふうな考え方もございますので、今後機会を見まして早速御相談申し上げるという考え方を、このような方向で進めていきたいと考えております。

○三番（流山源次郎君）　わかりました。

最後の工場廃液の問題でございますが、これは先ほど助役さん

の説明にもございましたとおり、現在は廃液の濃度とか、そういったいろんなものによっては捨てる場所が違っておるようでございますが、ただ問題は、昭和五十年程度までは野島崎及び大島見通し線以南に対して五十海里沖に捨てるということなんです、私なんかきれいな海だとか、きれいな魚ということを考えた場合に、一番きれいであるべき伊豆七島のところで取れた魚が、そこに工場があって水銀たれ流しされていると同じ結果になり、陸上施設で処分してもらって海に捨てないというような運動をこれから強く市あたり、われわれも一緒にやりますが、市民とともに市あたりは率先してこういったことは運動してもらいたいと思います。

それから、工場廃液の問題で、私なんか聞いた問題でございまして、廃棄物の乗組員でございしますが、先ほど助役さんの説明の中にはドラムかんの中に廃棄物を詰めて海中に捨てるということがあったんです。現在ではし尿と同じように船に積んできて、それをポンプで海中に捨てるというようなことをやっておる。

これに対して、捨てるときに船に乗っている作業員が捨てる際の廃棄物のガスにやられて二、三人倒れたということが、ある造船所につれてきてガスで倒れたという問題が出たんです。

それから、一本釣り業者が伊豆七島の沖にいきますと、今まではこやしのおいがしておったんですが、今度はこやしのにおいでなくて、すごくかわったくだもの腐ったような非常にへんなにおいが伊豆七島でしかぬというんですが、当然それは工場廃棄物と合致する問題だと思ひんです。

それから、館山湾に先日私なんかいさば作業をしておったん

ですが、そのときたまたま沖合いが南西の風が強くて、船は東海運輸の所属船でございます。その船が現場にいかななくて館山港の中に投錨したんですが、非常に気持わるいほどにおいがあるんです。その船をみたところが、東海運輸の所属の船であって、それに危険物の危という字がうたつてあるんです。そこに工場廃液ということが脇に書いてあるんですが、そういったことが館山湾がきれいだということになると、将来非常に不安でございますので、今後こういった取り組みは積極的にやっていたきたいということを要望いたしました、私の通告質問を終わりたいとおもいます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、三番議員君の質問を終り、午後の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会といたします。

午前十一時三十八分 休 憩
午後 一時 三分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

六番議員栗原一雄君御登壇願います。

（六番議員栗原一雄君登壇） （拍手）

○六番（栗原一雄君） 夏季シーズンが終るうといたしておりますので、観光都市館山の反省を兼ねて御質問いたします。

昭和四十八年度当初の第一回館山市議会定例会におきまして、その中に施政方針では、本年度の施政の基本として産業、教育、観光、福祉を四本の柱としてこのように力強く述べられておりました。

当時、私は館山の観光のポイントについて御質問いたしましたところ、首都圏の水の公園としての中心地というようなことが最高のポイントであろうと御答弁をいただきましたが、水の都としての海水汚染の問題等を考えますと、観光行政に疑問をいだくものでございます。

最近特に、大手デベロッパーやレジャー産業の進出は、各地に話題と問題とを起こしておるようでございますが、もちろん開発企業のみにかまかしてしまいますと、当然乱開発という問題が発生するわけでございます。

館山市のような経済力の弱い地域住民は常に経済的な安定を求めるものであります。何らかの開発を求めているようであります。そういった意味から考えますと、地域開発は若年労働者の流出を防ぐためにも必要であろうかと考えますが、現在、企業、その他にあっては一部週五日制を採用し、また考慮いたしておるときであります。

就業時間の変化は当然時間的余裕によりまして、一般国民の観光指向は今日までの見物型観光から、欧米の余暇を楽しみながら休養をする滞在型に変化しつつあります。

それらの観点から考えた受け入れ施設と環境を整備すべきであり、そこには当然自然発生的な経済の原則である需要と供給が行なわれるわけでございます。

館山市は豊富な自然、観光資源に恵まれておりながら、現実的には東京を中心とした京葉工業地域周辺では観光の後進地区であり、それは確かに逆に考えるならば、自然環境を求める現時点にあっては、一番最先端をいくものと考えられます。

今後の館山市の経済活動を活発にする意味からも、将来の観光指向がどのように変化していくか見定めながら、既存の観光地のものまねでは本当の渾れを取るものでありますので、時代の変化の先取りを行なうような計画的な観光開発を行なっていただくべくお願いし、それらの問題点をふまえて、現在の一季型観光の強い館山市の現状から考え、本年度の夏季シーズンにおける観光館山の問題点について御質問いたします。

第一点といたしまして、館山湾に流れる河川浄化と海水汚染の対策。

それから、第二点でございますが、養浜事業計画と観光に対する将来の考え方。

第三点につきましては、北条梯橋原状回復の問題、その後の経過についてでございます。以上でございます。

(市長職務代理者助役 泉山 伝君登壇)

○市長職務代理者助役(泉山 伝君) 栗原議員さんの御質問に對しましてお答え申し上げます。

館山湾に流入する河川浄化と海水汚染の対策でございます。館山湾に流入いたします河川のうち、汐入川とどん川につきまして塩素剤による滅菌装置を昭和四十五年に設置いたしました、水質保全にあたりておりますが、何と申しまして館山湾をきれいにしたいといたしますことにつきましては、流入する河川をきれいにすることが第一要件かと思っております。

なお、今後楠見川の滅菌装置をも現在いたしつつあるわけでございますが、本年の五月と六月、七月の三回にわたって行ないました館山保健所の海水検査の結果、那古、北条、西岬の各海

水浴場は非常にきれいで全く問題はなかったわけですが、館山海岸につきまして相当高い数値の大腸菌群が検出されたわけですが、河川浄化の問題は、やはり河川への廃棄物の不法な投棄をなくして、住民一人一人の御理解と御協力がなければなかなか解決されないことでもありますので、今後とも監視体制を確立するとともに、現在国体をやっております町をきれいにする運動を引き続き市民運動として盛り上げまして、河川浄化に努力する考えでございます。

なお、汐入川のしゅんせつ工事につきまして、かねて県に要望いたしまして実施してまいりましたが、本年度におきましても海水浴シーズンが終了した時点で実施することになっておりますので、今度は河口の砂も取り除くことになっておりますので、だいぶ通りがよくなるわけですが、以前に三福寺橋の下から下流をしゅんせついたしましたして、いろいろできておりました堆積物、小さな砂の島ができておりました、そこに草がはえていろいろごみもつかえて見苦しい面があったわけですが、それでも、非常にこれを取り除きましたので、水の流れもよくなっておりますので、わけてございますが、なお今度、本年は河口の砂を除去すると同時に、三福寺橋から上流のほうをしゅんせつしてこれをきれいにしようというふうなことで、土木事務所が計画をいたしておるわけでございますので、この事業の効果が期待されておるわけですが、今後も引き続きまして県に要望することははしまして、その他の河川につきましても浄化をはかってまいりたいと、かように考えておるわけでございます。

そして、おおせのように水の公園として恥ずかしいような

いつもきれいな館山海湾にしていこうということと検討をいたしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから、次に、養浜事業計画と観光に対する将来の考え方でございますが、海岸環境整備事業は従来から進められてまいりました。海岸線における海岸保全事業を促進する一方、新たにレクリエーション等海岸利用の向上をはかりまして、周辺の自然景観等の調和を保ちながら海岸周辺の緑化を推進いたしまして、さらに砂浜の造成や浄化もいたしまして、海岸線の利用度を高める事業といたしまして国におきまして主要海水浴場を対象といたしまして実施するものでございます。

当市といたしましては、この海岸線は一大観光資源でございますし、保護対象でございますので、現在問題となっております館山、北条海岸の砂浜の減少とか、あるいはまた汚泥の除去等解決策といたしましてこの事業の実現に努力をやってまいりたいと考えております。

現在、事業の実施計画等につきましては、県と折衝を重ねておりました、具体的な事業内容につきましては、やはり今後地元の関係者と十分話し合いをいたしまして御協力いただいて養浜事業を主体とした海浜公園の造成をはかって、一大観光資源としての充実を期したい所存でございます。

第三点の北条榎橋原状回復の問題、その後の経過についてでございますが、日本ブッシャーによります北条榎橋の決壊復旧につきましては、日本ブッシャーが市内の渡辺建設に復旧工事を依頼いたしました、渡辺建設は六月下旬に海中に残っております橋脚の残った部分の取り除き作業を始めましたが、なにぶん潜水夫

による海中での作業と、ちょうど海水浴シーズンに入りましていろいろ支障が生じまして作業が遅れておりますことは、たいへん申しわけないと思っておりますが、これから作業をいたしまして引き続き橋脚取り除き、除去、そのあとに制作中の新しい橋脚を打ち込みいたしまして、けた、敷板を取りつけまして復旧することと進めておりますが、一刻も早く完了するように努力いたしておりますので、御了承いただきたいと思います。

以上、簡単ですが、申し上げまして答弁にかえます。

○六番（栗原一雄君） 第一の問題でございます。館山湾に流入する河川浄化の問題でございますが、今御答弁いただいた中に汐入川と、ごんどん川のいわゆる減菌作業でございますが、どうも本年の新聞を見ますと、六月六日には二万二千という一〇〇当たりの大腸菌群の数字が示されております。六月二十二日の発表ではこれは館山湾あるいは内房地区すべて相当に低い数字ではございますが、館山湾にそそぎます汐入川の河口で三千二百六十八でございます。さらに、一番館山の観光シーゾンのまっただ中の七月二十五、六の発表では一万七千、しかも新聞によりますと、大腸菌うようよというようなことでございます。

私は、これで果して館山が観光館山かどうか。館山市内の皆さん大半が西岬のほうに海水浴に行く、行ったようでございますが、やはり地元の皆さんが地元で泳がないで西岬のほうに泳ぎに行くということでは、やはりそこに受け入れ体制の弱さがあるのではなからうか。このように考えるわけであります。

昨日ですか、ちょうど日中でございますと、干潮が時期的に日の時間でございまして、満水になりますと、いわゆるヘドロが

乾燥いたしましたたくさん、昔、田んぼの中にアオヤロウというのがございましたが、そういうような状況でたくさん浮いております。これは本年始まったことではないのでございます。昨年もそしてその前の年も同じでございますが、それらに対するやはり目で見ると、非常にきたないという印象を与えますので、そういった措置をどうして今まで野放しにしておったかどうかということだろうと思えます。

それから、二番目の問題でございますが、養浜事業計画ということになります。七月の初めでございます。汐入川の河口の砂でございますがあれを業者が砂を車へ積んでおりまして、何台かはやはりよそへ持っていくたようでございます。あとは久しい間汐入川のいわゆる館山桟橋寄りに積んであったんですが、やはり養浜事業といって現在では県でも国でも特定の場所を指定しながら養浜事業しようじゃないかという現時点において、どうして館山湾のあの砂をよそに持っていくかなければならないかということとを私は見、そしてまた聞いたのでございます。

そうしたことで、養浜事業というたいへん大事な時期でございますので、その砂浜をどういう許可という形でよそに持ち出したかどうか。一点お聞きしたいと思えます。

なお、やはり養浜事業ということは、海岸線におきまして砂浜が少くないというところでございます。せっかくのあのりっぱなヤシ並木一・五キロ植えましたも、実際やはりヤシ並木と海との景観それがやはりヤシ並木の特徴ではなからうかと思えます。

養浜事業といわれる今日、あのもちろん許可権は県にはございましょうが、館山市としてせっかくの少ない砂浜を、やはりああ

いった業者が幅広く砂浜を取ってしまうということになりますと、やはり海水浴は泳いだあとでこうら干しと申しましょるか。そういったところが海水浴のプールにない利点でございます。やはり砂に親しむという意味から申し上げても、もう少し館山市で規制できるような、そして車が走りながらヤシをながめ、そしてあの館山湾あるいは富士山を背景にながめることができるようなもう少し考えがあつてしかるべきではなからうか。このように考えるわけでございます。

それから、第三点の問題でございますが、北条棧橋の原状回復の問題でございますが、もちろん先般私が六月議会におきまして御質問申し上げました時点では、土木課長さんは九〇%の設計である。市長さんは何とか二十五日までしたい。させるようにいたしますと、このように御答弁いたしておられますが、先ほどの助役さんの御答弁である程度は了解したのでございますけれども、今回の当然破損された当時でございますが、約一千万。このようにいわれておりましたが、いろいろ事情あるかと思えます。そういった意味で、今回のどのぐらいの予算であの棧橋の回復をみているかどうか。そのへんの数字をお聞きいたしたいと思えます。

○市長職務代理者助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

館山湾をきれいにしておくことは、館山湾は国の宝であると同時に市の宝であるわけでございます。これをよこれから守るということにつきましては、今後とも十分これは対処してまいらなければならぬ重要な事項だと思います。

そこで、今までこれが汚染を防止するためにいろいろ市民の方々にお願いいたしまして、川をきれいにする運動等を実施してい

ただきましたし、あるいはまた川のしゅんせつあるいは薬の点滴というようなことで実施してまいってきでるわけでございまして、今までもできる限りの努力はいたしてまいっておりますけれども、今後とも一そうこれが館山湾をきれいに守るためには十分努力してまいりたいと思っておりますので、御了承願いたいと思えます。

それから、あの汐入川の河口の砂でございますが、これは何台か土木でいたしたようでございますけれども、ただいま栗原さんおっしゃるように養浜事業をしなければならぬところの砂をよそに少しでも運ぶというようなことは、これは十分気をつけていただかなければならぬことでございますので、いろいろ土木の所長とも話し合ひまして、上のきれいな砂はもうよそに持っていくません。だけれども、しゅんせつする場合に、その底のよごれたものについてはこれはよそにやらざるを得ませんので、というようなことで土木の所長も承知しております。ですから、それは土木の所長から業者に十分伝えてあることと存じます。

それから、当初あの橋でございますけれども、なるほどあれを全部新しくやりかえると、全部新しいものであるならばというようなことで一千万程度、土木課長が申し上げましたが、あれもできましてから相当古くなっておりますし、とにかく今、一刻も早くつくってもらうというようなことで二百五十万程度の工事量で現在やっておるようでございます。

○六番（栗原一雄君） 汐入川の汚染問題でございますが、もちろん市民の一部の方であるかと思いますが、木片や竹ざさあるいは産業廃棄物、ごみ、そういったものを不法投棄する方がいるわけでございますが、やはり河川法あるいは市の公害条例そういった

たもの、たくさん規制されており。そういったものでこれは犠牲者を出すということは非常に問題があるかと思いますが、ある意味ではやはりそれののちとてきびしく処分あるいは勧告のような形を取ればよろしいのですが、今まで過去そういった勧告あるいは注意、そういったものをしたかどうか。それについてお答えいただきたいと思っています。

○衛生課長（館石勸治君）　今まで、そういう事案はございまして土木出張所、保健所等と協議しまして、勧告という文書をもってはいたしません、口頭をもっていたしました事案がございまして。

○六番（栗原一雄君）　次の問題に移りたいと思います。

海水汚染の先ほどお話し申し上げましたヘドロ等の浮遊物でございしますが、富山町あるいは富清町では、いわゆるクラゲを防止するために網、ネットを張っておりますが、ある意味では関西などにまゐりますと、川の中に浮子をつけた一本のロープが流れております。それによってそういった表面に流れる浮遊物の処理をしておりますけれども、これは美観上、先ほどお話ししたとおりには海水浴にきれいな海だからということで汚染された東京湾の奥から出てまいります。そういった状況の中で館山にまゐりまして、ちょうど昼どき干潮になりますと、それから潮が入ってまいりますと、どうしてもヘドロが浮くんですが、これらの問題は、そういう浮遊物を二中の下あるいは海岸に出る前でとめるようなお考えがあるかどうか。

また、もちろん汐入川も先ほどのお話しでございますと、三福寺橋より上のほうを整備するんだ。このようなこともお話し聞いておりますが、もちろんそういったことになる、そういう浮遊

物も多少減ろうかと思いますが、これは一年、二年の問題ではなくて、やはり夏になりますと同じことの繰り返しでございますので、そういったことをやはりやっていただかなければ、せっかく観光地として計上してもやはり問題があるかと思うんですが、これから来年度そういうお考えがあるかどうか。ちょっと一言お答えいただきたいと思っています。

○市長職務代理者助役（畠山　伝君）　鋸南のほうでいろいろ浮遊する沖をとめるためのそうしたものをつくっているとは聞いておりますが、当市でも当時館山湾についてそうしたものをやるかどうかということで検討したんですが、結局被害あるいはその他のいろいろのこともございますのでやらないんですが、川の浮遊物を海に流れないうちにそうしたことでとめるということもたいへんけっこうな方法だと考えますので、これはまたいろいろ十分御意見参照しまして検討してみたい。かように考えます。

○六番（栗原一雄君）　先般の全協におきまして、二点の問題に触れるわけでございますが、館山市にいわゆる開発に関する指導要綱というものができたのでございますが、やはり先般白浜の問題が新聞にたいへんにぎやかにさわがれておったのでございますが、やはり常に御答弁の中に自然自然というおことばをいたしていますが、自然の環境保全だけでは、やはり基本的に事業を行ないますと、当然その裏にはやはり財政的なものがありまさんと、開発はあるいは生活はできないわけでございます。

そういったことで、やはり今回指導要綱が設けられたのでございますが、どうか、こういったものを十分いかされまして、館山市がこれからどういふような形で伸びていくか、市民の求めている

る要求はどういうものであるか。そういったものをお考えいただきまして開発をしていただきたいと思ひます。

三月の議会の質問の中に、養浜事業についてのある議員からの質問に対しまして、地域の皆さんと十分検討して、このような御答弁がございましたが、その後地域の皆さんとそういうような話し合いがあったかどうか。その点を一つ御答弁いただきたいと思ひます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 北条海岸の養浜事業につきまして、これにつきましては国の事業といたしまして県が実施するわけでございますが、先般も私県のほうにまいりました際に、この事業についての経過等について十分聞いたわけでございますが、事業の内容といたしましては先ほど助役のほうからお答え申し上げましたとおり、今後地元の関係の皆さま方と十二分話し合いをいたしまして、煮詰めて内容を検討する。決定する。こういうことでございますが、先般、県にまいりました際に、館山市の場合に特に過去にいろいろ問題等もあったので、十分地元の方々の話し合いをしたいというようなことでございまして、今まで直接地元の関係者の方々との話し合いはしてございません。ただ、北条海岸の旅館、民宿あるいは茶店組合といったような方々との話し合いの機会におきまして、私からその事業の内容等について御説明いたしましたして、一部地元の方々の意向等も聞いた事例はございますが、直接県をまじえての話し合いはしておりません。

○六番（栗原一雄君） 話し合いをしなかった。こういうようなことでございますが、やはり議会というものはあくまでも大切にしていただまして、答弁に対しては、できるだけ一つ一つ消化し

ていただくということで、お互いの館山市を前進をはかっていきたい。このように考えるわけでございますが、今日の私の問題につきましてはおおむね了解いたしましたので、質問を打ち切りたと思ひます。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、六番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後一時三十五分 休憩

午後二時 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一〇番議員渡辺軍治郎君御登壇願ひます。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇） （拍手）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、次の三つの問題について質問いたします。

第一は、水銀、POBなどによる魚介類の汚染防止について。第二は、水害を防止するための排水路の整備について。第三は、最近大幅に値上げされている固定資産税についてであります。

第一の水銀、POBなどによる魚介類の汚染防止についてですが、今までこのための運動が続けられてきましたが、その経過の上に立って問題を明らかにして、今後の対策をどうするかというようなことについて質問したいと思ひます。

六月の上旬から七月にかけて水銀による魚介類の汚染が大きな問題になり、市民は安心して魚が食べられない。鮮魚商は売り上げが五〇％も下る。漁民は魚価の値下りで漁にも出られないという事態が起きました。

共産党は、六月二十九日県当局に対して七項目にわたる緊急対

策を申し入れました。この状況を受けて七月二十一日の館山市の臨時議会でも水銀、POBなどによる魚介類の汚染防止に対する意見書が議決され、関係大臣に要請されました。

七月四日には、千葉県漁連が海洋公害危機突破漁民大会を開き公害企業の操業停止と汚染水域の浄化、被害の補償等を要求して立ち上り、その後海上デモや海上封鎖を実施して旭ガラス千葉工場、千葉塩素化学、日本塩化ビニール等の水銀使用三工場に対して要求を実現するよう交渉を続けました。鮮魚商組合の人たちも汚染魚絶滅と被害の補償を要求して県当局に陳情しました。

この間、共産党は、海上封鎖に対しては県と地区で船をチャーターいたしましたして漁民のたにかいを激励しました。また千葉民報を通じて県下に六十万のビラを流し、中央のビラ十三万枚と合わせて七十三万枚のビラをもって宣伝をいたしました。

このような状況の中で、水銀三工場との交渉は、県知事のあつせんもあって一定の協定が成立しましたが、その内容は全く企業ベースで根本的な解決にはなっておりません。市民や漁業関係者が一致して要求していることは、工場からの水銀、POBなどの有害物質の排出を直ちに禁止し、汚染水域を浄化してきれいな海を取り戻し、安心して魚が食べられるようにすることだ。こういうことでした。

この点協定では、水銀を使わない隔膜法への転換は、旭ガラスが五十年六月、千葉塩素化学が五十年九月、日本塩化ビニールが五十年十二月と二年先のことで、その間の水銀使用を禁止してありません。

また、汚染水域のヘドロの除去についても五六、〇〇〇平方メ

トルとごく狭い部分に限られ、期間も二カ月短縮したにとどまり企業側のやれる範囲でしかやらないという全く誠意のないものになっていきます。

その根本の原因は、今日まで水銀やPOBのたれ流しを放任してきた自民党政府と友納県政が公害企業に対してその責任を断固として追及できないところにあると考えます。

そこで第一は、旭ガラスはじめ水銀三工場の有害物質の排出を直ちに禁止させること。第二に、工場に対する監視体制を厳重にするともに汚染水域の調査と浄化をすぐ実施させること。これは県の責任でやるよう、市としても要請すべきだと思いますが、どう考えているか、お伺いします。

次に、漁業関係者の損害に対する補償の問題ですが、協定では二十四億円を要求をあとで十七億に修正されましたが、これに対して十一億円という低額補償で、その上損害を受けた期間も七月までを今年度いっぱい引き延ばしております。

館山市の漁業関係者の損害は、館山漁協関係で約三億三千万円、西岬漁協関係で一億五百万円、鮮魚商組合で三千二百五十万円と相当な額になっております。

あつせんに当たった県当局は、見舞金として県費二億五千万円を補償金に上のせして企業側をかばうような結果になっているのは問題だと思えます。

被害者に対する融資についてもその限度を三百万円とし、そのうち百万円に対して利子補給するとしています。その利子の負担率も県が二・八、市町村が二、末端二ときめたようですが、その根拠は被害を天災とみなして措置したと聞いております。工場廃

棄物による公害は人災であり、その責任が企業側にあることは明白であります。したがって、利子補給にしても補償の一部として全額企業側に負担させるよう、県に要請すべきだと考えますがどうか。お伺いします。

次に、魚介類の汚染調査についてですが、県の検査報告は、集荷市場や水揚げ場等地域別に出していないし、安全基準も乳幼児や妊婦を除いた科学的でない不確実なものになっております。また、漁業関係者の健康調査も水俣病類似の問診検査で毛髪の水銀検査はやっていないというお粗末なものです。有害魚介類の回収わりを防ぐためには、県内のすべての集荷市場水揚げ場で汚染調査を継続して行ない、その結果を公表するとともに安全基準を科学的に明らかにするよう、また漁業関係者の毛髪の水銀検査を実施するよう、県に要請すべきだと考えますがどうか。同時に市独自としても検査機械を購入し、検査体制を確立する必要があると思ひますがどうか。お伺いします。

次に、水害防止のための排水路の整備についてですが、九月以降の雨期をひかえて水害の発生が憂慮されますのでお尋ねいたします。

これまでも問題になりましたように、水害の発生地域ははっきりしております。昨年九月十五日の豪雨では住家の床上浸水が九十五戸、床下浸水が二百五十四戸という大きな被害を出しております。

この水害防止対策については全員協議会や十二月の定例議会等で排水路の整備が提起され、その後一定の努力はされているようですが、降雨期を前にしてまだ着工されていない排水路が大部分

であります。

第一は、市民センター、北条小学校付近から南の排水は、現在の上部排水路に集中し、排水しきれない状況にあります。この北のほうへの排水路は市民センター付近でふさがれ、排水路がないためここでも水害が起っております。

第二は、市役所の下から館高、中央公園付近の排水は、全部中央排水路に集中してここでも排水しきれなくなっているのに、北側の排水路は大千葉のところでふさがれております。

また、中央排水路の水面三分の二をふさいでいる歩道橋の橋脚の除去は、本年度の予算で施行すると聞いていますが、雨期前に着工できるのかどうか。お伺いします。

同排水路のヘドロの厚みは二尺ぐらいあると推定されますが、いつしゅんせつするのか、同排水路の上は、旭湯から木材置場にかけて物置場になっているが、排水路にふたをして歩道に改良すべきだと思ひがどうでしょうか。

第三は、八幡の鉄道線路の西側の道路の側溝は整備されたようですが、この付近の排水路は予算の要求もしてあると聞いておりますが、雨期前にできるのかどうか。

以上、南北に走る三つの排水路の流域は、たびたび水害を受けていますが、これは天災ではなく、排水路のないところから起こる人災でありますので、緊急の着工が望まれております。

第三問は、固定資産税の問題についてですが、地方税制の一部を改正する法律案は四月二十四日衆議院、二十五日は参議院で全野党の反対を押し切り、自民党だけの賛成で可決され、四月二十六日法律第二十三号によって公布されたものですが、この税制改

正との関係で、三月の定例議会で四十八年度分の固定資産税及び都市計画税の第一期の納期を特例として五月一日から五月三十一日までと決定しました。市税条例の一部を改正する条例案は五月七日の臨時議会で議決されていますが、そのときの事務課長の説明では、今回の場合は四十八年度の基準年度が一月一日において行なわれ価額が決定されておりましたが、その二分の一が最終的には五十年年度の課税標準になる。四十八年度、四十九年度は従来の負担調整率でやっていくといっておりますので、四十八年度の固定資産税の値上りは一月一日の土地価額の評価にあると思いますが、市民の中から四十七年度との比較で高過ぎるという声が強まっておりますので、土地価額の評価をどのようにきめているのか。お伺いします。

また、五十年年度からは負担調整措置がなくなるが、住宅地については課税標準を評価を二分の一に押えるとしても、地価の値上りにより過酷な課税にならざるを得ない状況であります。

そこで、土地の評価の問題ですが、住むことを目的にしている住宅用の土地と投機目的あるいはもとと住むつもりで持っている土地、転用目的の土地はそれぞれ利用価値が違っているのに、一律に時価で評価して課税しているようですが、時価評価は一見公平のようで実際には不合理で、不平等な負担をしいる結果になると思うがどうか。特に、所得との関係で低所得層にはたいへん無理な課税負担になると思うがどうでしょうか。

最後に、固定資産税の税率は、市税条例で百分の一・四にきまっておりますが、公有地の税率を百分の一・六で計算しているのはどういう理由によるものか。

以上で、質問を終わりますが、問題点は再質問の中で明らかにしたいと思います。

(市長職務代理者助役 畠山 伝君)

市長職務代理者助役(畠山 伝君) 渡辺議員さんの御質問に對しましてお答え申し上げます。

市民が安心して魚を食べられ、漁民や漁業関係者が安定した営業ができるように、水銀、PCBなどに対する魚介類の汚染防止対策についてでございますが、これは流山議員さんのおりにも申し上げましたが、本市におきましては汚染源となるような大きな工場等はないわけですが、この問題は県下共通する大きな課題でございまして、市においてなかなか解決はなし得ない問題でありますので、市といましては、その処置につきまして国、県にいろいろ要請し、協議して汚染防止につとめてまいりたいと思っております。

そこで、この企業の水銀使用禁止あるいは補償金は全額企業側にさせる。あるいはまた毛髪検査等につきましては、これは大事なことでございますが、いろいろ先般千葉県漁業協同組合連合会と三会社によりまして協定されたものもございまして、今後とも水産審議諮問機関等もございまして、十分御意見を聞いて相談申し上げて、しかるべく善処したい。かように考えるわけでございますが、何といたしまして、この水銀を一日も早く、たとえ旭ガラス五十年六月末日とありますけれども、一日も早くこれを使わないように、そうしてまた大気にも拡散しないようにというようことは十分今後とも見つめていかなければならないこととございますが、いろいろ御意見を承りながら進んでまいり

たいと思います。

なお先般、魚をたくさん食べられる漁民の方を県で検査いたしました。が、金員の方々が別に異常なかったというような報告も聞いているわけですが、なお市といたしまして、その検査の機械を購入して独自にしたらどうかという御意見でございますが、これにつきましてはいろいろ私どもも調べてみたわけでございますけれども、これには原子吸光計と申しますか、総水銀をはかるという機械、POBにつきましては放射線を使用するような機械を使うわけでございます。非常にそれを使うのに技術と申しますが必要で、国家試験でその資格を持った人でなければできないし、またその機械も買うことができないというようなこともあるわけでございます。なおまた、これが検査に期間も相当期間かかりますし、また一検体の相当検査料もかかるわけでございます。

そこで、七月の二十七日に東京で全国の漁業基地の所在都市の協議会の役員会がございまして、厚生省の発表後にこれを開きましていろいろ共通することについて国へ要望する条件等を役員会で話し合いがあったそうでございますが、この中でやはり各地方団体がそういうような設備をする場合に、機械購入について補助を国に要望したらというような意見も出たそうでございますが、これは地方自治体でそうしたことを発表することの權威がどの程度あり得るか。そうしてまた、国の発表と県の発表の検査の中にも食い違いがあるような場合もあるときに、地方公共団体でそういうことをしておお混乱をまねくようなことがありはしないかというようになことも話の中で、結局これは要望しないことというこ

とできまたやに聞いておりますけれども、これが市独自であるということにつきましては、非常にいろいろな問題もあるわけでございます。慎重にこれは検討しなければならぬんじゃないかと、かように考えるわけでございます。

次に、水害の発生を防止するための排水路の整備についてでございますが、四十七年度の排水路等の整備につきましては六軒町第二下水路、代田水路及び境川上流の水路等八カ所ありまして、延長約九五メートルを工事費千二百万円で改良整備いたしました。

また、四十八年度といたしましては、八幡下水路ほか九カ所で延長約一、二〇〇メートルを改良整備する計画でございます。このうち神明町水路は工事が完了いたしました。代田水路、境川上流の水路の設計は終りまして近く工事を発注する予定であります。また、八幡下水路は現在設計中であります。これも近いうちに工事を発注する予定でございますので、残りの六カ所の改良整備につきましても早急に実施するように努力したいと思っております。

なお、境川上流のしゅんせつでございますが、館山土木事務所によりまして昨年十二月末より本年一月にかけまして、鉄道より上流約九〇メートルを本田建設によりましてしゅんせつ済みでございます。

なお、南町の歩道橋の件でございますが、本年度県におきまして橋脚改造の予算化はなされておりますが、現在館山土木事務所では九月になったら学童の利用状況等も調査して橋脚の改造をするか、あるいは残すか、取り除いて押しボタン信号機に変更する

か等につきまして検討をいたしてあるところでございます。

次に、固定資産税について、土地の評価はどのようにして決定するかとの御質問にお答えいたします。

土地の評価につきましては、自治大臣が定める固定資産評価基準に基づきまして、これを行なうことになっております。具体的には三年ごとの基準年度のたびに国や都道府県ごとに、都道府県は市町村ごとにそれぞれ基準地を指定いたしましたして、売買価額等を基準に評定した適正価額を定めまして、市町村及び全国的な評価の均衡をはかっております。

加えまして、県は評価の適正水準を保持し、より一そう価額の均衡化をはかるために、市町村ごとに評価平均額を算出いたしまして、この価額を市町村に指示いたしております。

本市におきましては、評価額につきましては県からの指示価額を受けて価額を決定いたしました。そのうち宅地については、市街地と、市街地の形態を形成する宅地につきましては、市街地宅地評価法によりまして、また、市街地を形成するに至らない宅地につきましては、その他の宅地評価法によりまして、売買実例価額、正常売買価額あるいは精通者価額を基準に評価補助員の意見を添えまして、宅地に隣接する路線及び状況、類似宅地を対象に評点を付設いたしまして、それぞれ宅地の価額を決定した次第でございます。

土地の評価額の決定は以上のとおりでございますが、固定資産税の課税につきましては、本年の税法改正によりまして、農地と住宅用地を除きまして、評価額を課税標準額とすることになりました。ただし、税負担の急増を抑制するために四十八年度にお

きましては、個人所有地は従来の負担調整を継続するものとして、なお、法人所有地は従来の負担調整を継続する部分と、これと異なる調整を行なう部分によりまして全負担を調整する特例措置が取られておりますので、以上、申し上げまして答弁いたします。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 再質問いたしますが、第一点の汚染魚問題ですが、今まで市が県のほうに要請してきたそういうようなことは、流山議員からの質問に答弁があつてわかつているんですが、私がここで要請しているのは、一応の運動が経過としてあるわけです。ね。その中ではつきりしていることは、水銀の排出をやめろというのに、二年間も水銀を放出するようなそういう現実事態になつていくわけですよ。今後これをどうするのか。今までは運動を進めるにいろいろな団体が運動してきましたが、その結果として今出ている問題をここで明らかにしたわけです。

ですから、ヘドロのしゅんせつにしても、水銀の排出をそのままにしておいて、それで今ヘドロを除去しても、そのあとにまた水銀が流れて出るわけですから、調べてみますと、この三工場で七、〇〇〇トンぐらいの水銀排出をやつておる。千何百トンというのは空中に発散していますが、そういうものは雨で流れてみんな海にいくんですよ。そういう事態が現実にあるのに、このままにするわけにいかない、そうだと思ふんですよ。

そこで、今のそういう事態をふまえて、私は市としても県のほうにそういう点を明らかにして要請できるのかどうかということを知りたいわけです。要請するのかどうか。

今までの市の態度を見ますと、県に対して非常に姿勢が弱い。そういう低姿勢で、館山でも四億近い被害を受けているわけですよ。

から、漁業関係者や市民にとっても重大な問題ですから、そういう点で工場がなくても県に対してそういう行政的な取り締まり、規制を早くやるべきだということなんです。

ヘドロの除去にしてもすぐにこれをやらなければ、この問題が解決しなければ、あとから、あとから汚染魚はやっぱり出てくるわけです。

ですから、そういう新しい観点で県に対して、そういうことに對する措置を市としては当然今までの状態ではなしに、新しく県にそういう要請すべきだということを聞いているわけです。それをどうやる気があるのか、ないのか。その点をひとつはっきりさせてもらいたい。

それから、利子補給の問題ですが、県が二・八で市町村が二・一、末端が二というふうに配分率をきめているんです。そうしますと、当然県でも利子補給するが、市でも利子補給をしなければならぬ。実際被害を受けた人もある程度の利子負担はする。こういうことだと思ひますが、大體融資の問題、利子補給もいわばこれが企業がそういう被害を受けましたから、そういうものは当然補償の一部として全部企業に負担させるのがあたりまえだと思ひます。

そういう面で、県の姿勢が非常に企業側に対して弱腰なんです。ですから、二億五千万も県費を使って補償のうわのせをして何とかごまかそうと、二億五千万は当然やっぱり企業側に負担させべきものなんです。そういう姿勢になっているんです。

だから、この融資問題にしても、利子補給は全額企業から出させるということを経うでやれ、そういうことにならなければ

やっぱりこの利子補給も県と市町村と本人というようにぐあいに分割されてきて、県が五〇％それぐらゐの利子負担を県がやるということを聞いておる人もいるけれども、とんでもないことで、全部ひっくり返してそれぐらゐになるかもしれないが、利子補給の問題はやはり重要な問題として市とも関係があることでですから県に対してもっと強くやるべきだと思ひます。

こういう二つの点の要請を市が市の問題として取り上げて県に対して低姿勢でなしに、もっと市民のため、漁民のためを思つて強く要請すべきだと思います。それを聞いているわけです。

それからもう一つは、汚染魚の調査の問題ですが、今までのやり方を見ても、何かそういう問題があると衛生研究所に持ち込んで調査してもらつたというふうな非常に消極的なやり方なんです。

そうではなしに、常時いつでも水揚げ場とか、あるいは集荷市場とかそういうところで魚を常時検査して安全だということをみんなに知らせるようなことをしないと、安心して魚を食えないわけです。そういう点が今までも弱かったし、一カ所にそういう検査が集中するため三月も先にいかなければ検査の結果がわからないというふうなぶざまな形になっておるわけです。

市としても漁業関係者あるいは役員が中央で会議を開いて国に要請したらどうかというふうな問題が流れたようですが、これは権威の問題もさつき話に出ましたが、科学的に調査したものに権威がないという話はないですよ。どこでやろうと、地方自治体でやろうと、それからそれでないところでやろうと、どこで検査しても科学的な検査である以上、機械が信頼されるものならば当然権威があるわけです。だから、これは中央の話し合ひは問題に

ならないと思う。

大体、機械は二百四十五万あれば入るんですよ。技術者の問題が問題になりましたが、市長さんはいつか技術者を養成していましてというふうなことをいわれたと思うんですが、技術者の養成もやっぱり積極的に考えてやって、市独自としても、たとえば船形とか、館山とかそういうようなところに市場があるんですから、今まで県の調査でも地域的にどこで取れた魚が安全だというような、そしてただ魚の種類だけあげて発表している。

そうでなしに、館山で取れた魚はここで調査して安全なんだ。科学的にそういうことをやれば問題はなくなるわけですよ。ところが、一カ所に集中してやろうとすれば、三月も先にいってみなければわからないという、そんな手ぬるいことでしょうかありませんよ。

これは、常時検査することによって汚染源がどうなっているかということに関連するわけです。常時やる必要があると思うんです。そのためにこれがやっぱり独自で、二百四十五万というところう大きな金額ではありませんから、機械の購入はできるとしても技術者の養成の問題が一つありますけれども、これもやる気があればできないはずはない。魚介類の汚染問題軽視している。人間の生命と暮らしに対する非常に大きな問題、そういうものに対する軽視があるから、積極的にそういう施策ができない。こういうことになっていると思うんです。

それから、排水路の問題ですが、これは計画的に、計画はあることでしょう。なければおかしいと思うんです。しかし実際計画どおりに進められているかどうかということになりますと、そう

なっていないですよ。これは先ほども話しましたけれども、ある程度これらの水は全部汐入川、境川の方に向かって集中して流れるような状態になって、湊川にいく排水が一つも完成してない。

市役所の上だって、この前の質問では耕地整理との関係で、耕地整理のときにやりますというような、そういう消極的な姿勢です。耕地整理いつやるんですか。ことしだってやらないでしょう。館野のほうはやっと手をつけていますが、これができなければ手をつけられないような状態で、今、大雨が降れば水害が起きますよ。そういう問題なんです。

聞くところによると、館高の移転であの高井のところが埋め立てられますよ。そうしますと、今あそこのまん中に排水路があるんですが、あそこらまで埋め立てになるわけです。この市役所や市民センターのところからむこうには排水路がないんですよ。だから、ここでは水が流れないからみんなここへ水がたまって稲を植えるのにたいへん。水がはけないから田んぼがそういう状態になっています。ここに農地を持っている人は十人いますけれども、その七人の人は農振法に反対していますよ。三人だけが農振法でやってもいいと、あと七人の人たちは、もう市街化されているんだからそんなことをやってもしょうがない。水利権を放棄するんだ。こういうふうな状態になっているんですよ。

だから、耕地整理をやるといっても問題があるんですよ。その耕地整理を待っていたんではいつ排水路ができるかわからない。こんな答弁ではやる気になってないということをはっきり示しているわけですよ。

この下だつてそれでしよう。全部校庭からなんから全部中央排水路にいくんですよ。衛生課長の話では、毎年あそこの中央排水路のしゅんせつをやるといっておるんですが、やったためしがない。今だつて二尺ぐらいヘドロがたまつていますよ。いつやるんですか。衛生課ではやるという返事をこの前の議会でもしているわけですので、下のほうは橋脚のあるところをちょこちょこやりましたが、上のほうの幼稚園のところは二尺ぐらいヘドロがたまって、上のほうの水がながれない。流れたとしてもあの一カ所に集中するんですよ。北のほうは大千葉のところでとまっていきますから、安房高のグラウンドとあそこのところを通して湊川に流す水路というものはないんですよ。

八幡のほうは、先ほどの回答で今計画中でやるということはいっていますが、やろうと思えばすぐやれるように、あそこは簡単にできると思っています。大千葉のところがあそこの水路というものはできると思っています。排水路につながるころも大体うまくいくような条件あります。上のほうが問題だと思っています。耕地整理待ってもだめですよ。そういう問題を一体どういうふうに考えているのか。雨期を前にしてやる気があるのかないのか。そこらははっきりしてもらいたい。

それから税金の問題ですが、県の指示を受けてやっていると、こういいますが、私が聞きたいのは、大体基準年度で評価がえはしていると思うんですが、一月一日で評価がえしていますから、四十七年度に比べて上っているというあれがあるんです。

私の資料は部分的な資料ですけども、八幡の千五百二十四番地ですが、これは隣合っていて一方のほうが坪一万七千十四円、

その隣が二万五千九百四十八円、その付近が二万九千四百二十円、こういうふうに隣合っているにも評価が違ふ。こういう点一筆調査をやっているのか。それとも県から指示されてある部分を倍率を出して、その倍率をかけてそうして出しているのか。これは評価と時価の問題があると思ひますよ。

土地というものは、値段があつてないようなもので、相対相場で買う人があればそこで地価がきまると思ひますが、長くそこに住んでいる人と、新しく土地をそこへ買う人との違いは差があると思ひます。宅地あるいはさきいきましたように投機的なあるいは売る目的で持っている人、営業のために必要とする人、いろいろ条件が違ひます。そういうものを考慮して評価しているか、一月一日に売買価額で評価するかということではえらい矛盾があるわけですよ。これは将来税制改正で五十年先にいったら二十四倍も上るような、そういう状態だつて出てくるわけですよ。それは、金のある人は、あるいは土地を売つたりなんかして過ごせる人はいいけれども、住むだけに土地を持っている人には使用価値は住むということだけです。それにそういう課税をすることはえらい大きな間違ひだと思ひます。それに對する救済措置は何にも出てないんですよ。だから、その評価をどうするかで救済はある程度できるような面もあると思ひます。そういう評価を一体どのようにやっているのか。そこが知りたいわけですよ。

これは、税制改正は、結局土地問題で土地の投機をおさえるというこゝで出てきたことですが、こんなことをやっても大資本が買った土地は税金が幾らかかるうが、地価が上るうが、みんな地

師にうわのせして高く売るんです。全然損をしない。あおりをくって損するのは住民なんです。地価が上って税金が高くなれば住んでいられませんか。こういう問題です。

ですから、非常に重視すべき問題なんです。ですから、評価の点をもう少しくわしく。

〇市長職務代理者助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

この有害物質水銀あるいはPCBこういうものにつきまして強く除去されるように県に対してもっと積極的に申し入れるというふうなことでございますが、これはぜひ漁民の方や一般市民の方方に安心して食べられる、営業できるように願うことは当然のことでございますので、なお県のほうにそれについては申し入れたいと思います。

なおまた、近く水産諮問機関等も開催いたしまして、種々相談してまた県にもその旨要望してまいりたいと思うわけでございます。

それから、調査は常時すべきである。これは全くごもっともでございますまして、県におきましては引き続き二次、三次を実施するそうでございますけれども、これは今後とも県にも要望してまいろうというふうに考えておるわけでございますが、このことにつきましましては人命にかかることでございますので、真剣にこれは市長考えております。決して軽くは考えてはございませんけれども、市で独自の検査をということでございますが、おっしゃる通りに技術者は県で三名いるそうでございますけれども、非常に少ないわけでございますが、これにつきましては今後とも十分研究してまいりたいと考えております。

なお、土木、衛生、税につきましては主管課長からお答え申し上げます。

〇土木課長（飯田治男君） 市民センターから平久里川への排水の件でございますが、これは四十九年から西部地区の圃場整備が始まるということで大体線引きも終っておるようでございますので

そういった点で合わせていくというふうに考えております。

〇衛生課長（館石勤治君） 中央排水路のどろ上げと申しますか、

これは実は中央排水路の中で館高の前から一二八号線までの間でございますけれども、その間、中央公園を除きまして実施してございます。ただ、先ほども御指摘のあったとおり、一二八号線のあるところに横断橋がございますので、横断橋の基礎工事に大きな平たぐ基礎が組んでありますので、基礎の一番上の線に合わせましてどろは上げるように計画を組んであげたわけでございます。実施してございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 今、どろをあげたというところを見ま

した。あれは橋のところだけちよこちよこやって、元幼稚園の中央公園のすぐ近くのおそこいつも浸水しちゃう。こんなにヘドロがたまっているんですよ。知っていますか。こういうのをこの前もいったけれども、取ってないんですよ。だからあそこの上のほう浸水しちゃう。やるやるといつてやれば、ちよこちよこ橋脚のところだけやって、橋脚を取りはずす工事のためにやるのかと思っ

て見ていたらそうでもない。これでしゅんせつしたというとお話しにならない。橋脚の問題にしても検討中だ。あれをよそに持っていくか、取るか検討中だ。この前はちゃんと橋脚を取ると、下取れば、上に橋ですか、そういうものを渡してやればすぐでき

るんですよ。検討中といつてもいつになるかわからない。雨が降ればまた被害が起こる。

ですから、やるといっても、やるような段取りを進めないところに問題があるんで、そういう点では行政が市民の立場に立っていないんですよ。端的にいうなら、本当に市民の立場に行政が立っているなら、そういうせばつまったような問題があれば、早くそれをやるということになります。被害がまた起こりますよ。

だから、私は補償問題として、やるべき問題やらないで被害が起こった場合に全額補償しろということをお出しなわけですよ。そういうことをいっておるので、いつやるのか。

上のほうのあれだって、四十九年度、そういうことをいっておいたらどうしますか。被害がまた起こりますよ。起こったら補償しますか。

耕地整理といつてもなかなかむずかしい問題で縄伸びも出てくるし、いろいろの問題がある。農家の関係もあるし、今でも市街化区域に入れるという問題もあるのでなかなかむずかしいので、ちゃんと計画して排水路をこうつくるんだというのせたらすぐ実施する方向で予算化していかないといつになつてもできませんよ。そういう問題は、はっきりさしてもらいたいと思うんですよ。四十九年度といわずにすぐやるべきだと思ひます。差し迫っている問題ですから、ヘドロのしゅんせつだつてとんでもない。やつたなんて、この前やったといつてもやってないんですよ。だからあんなにたまっておるわけですよ。そういうことでは、今の回答は承認できません。

〇 税務課長（越路良夫君） 土地の評価につきまして申し上げます。

一定倍率か、あるいは一筆調査かということですが、これは先ほど助役のほうから申し上げましたように、それぞれの宅地の隣接しております路線につきまして市街化、市街地の形態のある場合につきましては、それぞれ路線化を設定いたします。その設定後に一筆につきましてその宅地の間口あるいは奥行あるいは宅地の形の変形あるいは正常それぞれそういうものを見まして補正いたしまして、宅地につきましては価額を設定するわけでございます。

それから、土地の使用状況についての価額をそれぞれ加味すべきじゃないかということですが、現行法でまいますと、住宅用地につきましては二分の一の軽減措置が現行法でございますが、それ以外につきましては現時点ではございませんが、ただ新聞発表等によりますと、基準的な生活の最小限度の宅地についてはこれを軽減すべきだということについて、若干の論議がされておりますが、それについては今後の問題点であろうかと思ひます。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君） 評価の問題ですがね。これは隣合つていて違うわけですよ。基準年度が三年ですけれども、三年の間にそんなに大きな売買による変化があったかどうか。これだつて疑問だと思ひます。基準年度がきたからそのたびにかえていくという、そういうことになれば、三年目ごとに上げるわけです。しかし三年間にそんなに大きな変化があったというところはそんなにたくさんはないと思ひます。そこらが一ひとつは問題だし、最後に時間がありませんから、固定資産税率で百分の一・四になつておるが、市のほうの公有地の貸し付けのあれでは百分の一・六

で計算しておりますが、これはどういうことなんでしょうか。

○財政課長（長谷川広治君）

土地の貸付料の算定基準として百分の一・六を使っているというような御質問のようでございますが、私どもの貸付料算定の基礎といたしましては、固定資産税と都市計画税それを合わせました分を百分の一・六というふうにおさえて算出をいたしてございます。

○一番（渡辺軍治郎君）

今の話だと、資料をもらっているわけですね。都市計画税と分けて書いてあれば、はっきりしますけれども、市条例で一・四になっておるのが一・六で計算している。これは固定資産税として出ていますから、そういうことではちゃんとはっきりさせべきだと思いませんか。

これは、市がこの前の土地のあれには結局この都市計画税を含めた価額で地代の値上げを要求しているんです。要求として出したのは、都市計画税を含めた一・六の計算でこの固定資産税を全部地価として払えというそういう請求をしたんです。私はちゃんと知っていますよ。そこで、大幅な値上げだから下げさせろということで、たかかえという援助をしたんですが、これを半分に下げましたけれども、これは半分に下げるのはあたりまえだと思いませんか。しかし、計算のしかたとしてそういうような形でおしつけているというところに問題があると思いませんか。

評価の問題でも隣合っていて坪単価がえらい違うんです。ところが最近の情勢で三年目にどんなに大きな変化があったか。全然ないんですよ。課税基準をきめています、しかし今上っている差額というのは片方では九八%、片方では四〇%、要するに倍率だっけすいぶん違った形で出ているわけですよ。隣合っていてそ

ういう評価の違いがあるわけですよ。

だから、問題は、何か機械的に県の指示があったから、それにならって大体かさ上げをするというようなやり方では、自主性も何にもないと思いませんか。

これは、地価が上がるということは、館山市の発展にとっては大きな妨げになるわけですよ。よそから入ってこれないような壁をつくるわけですから、そういう点では地価というのは非常に重要だし、また地価が上れば低所得者層にとっては上ったからといって収入がふえるわけではないわけですから、それだけ生活を圧迫するわけですから、それが家賃、地代にはねかえっていくということを考えれば重大な問題なんですよ。そこでは、やはりある程度救済措置が、不公平な救済措置がないんですから、評価するときにある程度考えてやらないと、そういう矛盾が大きくなるんじゃないか。そういう点は考えておられるのかどうか。

○税務課長（越路良夫君）

評価の問題でございますが、ただいまの隣接する場合でその差が相当あるということでございますが、その実態といえますか、内容を確認しませんとはっきり申し上げられませんが、その路線が同一であり、また従前の形が変化がないということであれば、そのような差が出るということとはちょっと考えられませんが、たまたまそれが片方が宅地であり、片方が宅地以外であるかどうか。そのへんの状況もわからないのでお答えにならないかと存じますが、なおまた、ただいまの評価の場合に県の指示に基づいてということでございますが、県の指示はあくまでも評価の均衡を保つ、これは県下あるいはひいては全国的な均衡を保つという一つの方向でございます。

市におきましては、市の評価補助員もおりますし、それぞれの精通者価格等参考にしまして、市の実態にそったもので評価しているということ、それに加えて県の平均価額がそこにさらに出てくるということによって、さらに先ほどの不均衡というものを排除していくという方向でやっているわけでありす。

○一〇番(渡辺軍治郎君) むずかしい問題ですから、とにかく売買の実例があればですけども、多くの場合、売買実例というものは無いと思うんです。三年間の間に時価といえは売買された値段で評価されるわけですから、そういうものがなければ前の引き継ぎとしていくわけですから、そういう点ではまだ納得できませんけれども、これは非常にむずかしい問題でありますから、税法もありますから、今後研究してもらって市民が苦しめられないようなことでやってもらいたい。

どぶさらいのほうは、これは早急にやってもらうようにお願いします。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で一〇番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後三時

休憩

午後三時二十三分

再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、八番議員石井武敏君御登壇願います。

(八番議員石井武敏君登壇) (拍手)

○八番(石井武敏君) 私は、通告してございますとおり、福祉政策、交通対策、公害問題について御質問したいと思いますが、今回の私の通告質問の底流にあるものは、人間優先の政治をめざす

というのがテーマになっております。

はじめに、第一に福祉政策についてでございますが、市内の商店や個人事業所などで独自の福利厚生制度を持たない職場に働く勤労者の生活安定と福祉の向上をはかるために独身青年のための結婚資金や住宅資金などの貸し付け制度や生活つなぎ資金を貸し付ける制度を確立したかどうかという点であります。

また、老人対策につきましては、老人福祉法第二条に示されておりますとおり、「老人は多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として敬愛され、かつ健全で安らかな生活を保障されるものとする。」とありますが、また同条の第四条第二項に「国及び地方公共団体は老人の福祉に係る施策を講ずるに当たっては、その施策を通じて前二条に規定する基本的理念が具現されるように配慮しなければならない。」とうたわれております。

六十歳あるいは六十五歳以上の単身老人たちも家庭的にも、社会的にも孤独の状態にありますので、日常生活が心配されるわけでありすが、この一人暮らしの老人をなぐさめ、日常生活の様子を見回わり激励してくれる巡視員制度をもう一步充実し、老人福祉に万全をはかる必要があると思います。つまり、ホームヘルパーの増員等々であります。この点いかが考えますか。

また、重度心身障害者に対しての移動浴槽車をつくり、入浴の困難な心身障害者や老人で、だれか家族が介護しなければならぬ人に対して定期的に入浴の奉仕ができるようにはからえないものかどうかという点であります。

次に、交通対策であります。最近の市内における交通事故の増加は私たちの生命を日夜おびやかす、交通戦争とまでいわれる

深刻な社会問題であります。この人間の生命を守る交通事故対策の必要性が急務でありますので、次の点における具体的な対策についてお聞きしたいと思います。

つまり、歩道の新設、信号機、照明灯などの設置について、その対策はどうなっているか。また、児童に対する交通安全教育の確立や体制を確立する必要があると思うがどうか。また、悲惨な子供の事故を防止するための学童通学路の整備、また児童交通安全団の設置についてはどのように考えているか。また、真通りや路地等への自動車の乗り入れ規制を強化し、子供の遊び場を確保できないかどうか。また、買物道路いわゆる商店街の自動車の乗り入れを規制し、安心して買物ができるように道路を確保できないか。また、交通事故の処理を迅速に行なって被害者の権利と生活を守るため強い権限を持った交通事故紛争処理機関を市に設置できないかという問題であります。

また、公害問題につきましては、海水、河川の汚濁防止のため定期的に調査を行ない、処理、処分の技術開発を考える必要があるかどうかという問題。

あるいは、し尿処理場の現状は、その処理能力の限界を越えており、公害問題化しているが、その対策はいかにという問題であります。この公害問題につきましては、先ほどの質問で答弁がありましたけれども、別の角度で答弁がありましたらお伺いしたいと思ひます。以上です。

(市長職務代理者助役 畠山 伝君 登壇)

○市長職務代理者助役(畠山 伝君) 石井議員さんの御質問にお答え申し上げます。

第一に、福祉政策についてでございますが、その一、勤労者の労働福祉充実のために独身青年のための結婚費用や住宅資金などの貸し付け制度や生活つなぎ資金を貸し付ける制度を確立したらどうかというところでございますが、勤労者の労働福祉の向上は、労働者の健康と生活を守り、労働能率の向上に資することが大きいわけですので、この労働福祉の充実には国、県、市町村のおのの立場において種々対策が講じられておりますが、各企業、労働団体みずからにおいても積極的な努力をしておられるわけであります。

当市といましては、勤労者の生活資金の拡充をはかるための対策といしまして、千葉県労働金庫に二百万円を預託し、市内勤労者を対象に住宅資金、更生資金等の融資を円滑にするための措置を講じております。また、市内勤労者の福祉厚生対策といまして助成を行なっております労働団体で生活資金、住宅資金、結婚資金等の円滑化をはかっていただいております。

なお、国におきましては、漁業者を対象とした後継者住宅対策資金制度や、農業後継者が新生活設計に基づいて行なう住居の改良、造成または取得に関する資金融資のための農業近代化資金制度がありますので、これの制度の活用をはかってまいりたいと思ひます。

また、生活つなぎ資金につきましては、本年度より社会福祉協議会で行なっております民生金庫の内容が改められまして、急場の必要に即応できるように改正されたわけでありましたが、その結果、低所得者に対する生活つなぎ資金といまして限度額三万円、償還六カ月の無利子で貸し付けが開始されておりますが、

まだ業務実績が浅いためにあまり知られてないむきもあるようですので、今後そのPRにつとめるような行政指導をして趣旨の徹底をはかりたいと思っております。

なお、御指摘の独身勤労青年者に対しては、現在不足しております若年労働力の確保の上からも重要な事項でありますので今後国、県の施策と相まって十分検討してまいりたいと存じております。

次に、寝たきり老人、独居老人及び障害者の福祉対策についてでございますが、老人福祉対策につきましては、議会の御熱意と御協力によりまして、きわめて積極的にその推進を行なっておりますわけですが、御質問の關係につきましてもヘルパーの派遣あるいはベル設置についてもそれぞれの基準に基づいて必要とする方々の調査を十分いたしまして、最善を尽して実施をいたしておるわけでございますが、今年はさらにこれらの事業の推進をはかる意味で、この六月から七月にかけてまして民生児童委員を通じて全市一斉に独居老人、寝たきり老人の実態調査を行ない、また今月いっぱいのもので要介護、重度障害者の実態調査も行なっておりますが、このことはよりの確にその実態を把握して、お説のような老人、身障關係の福祉増進に万全を期したためでありますので、一斉調査で明らかにされてくる実態の中で、御趣旨に十分こたえられるような努力をしてまいりたいと考えております。

老人、重度身障者に対します移動浴槽車についてでございますが、御案内のように現在安房郡市広域市町村圏組合におきまして特別養護老人ホームの建設を進めておるわけでございますので、現在のところ、まずこの施設の早期完成に全力をあげてまいりたい

い所存でございますので、よろしく御了解のほどをお願い申し上げます。

交通対策についてでございますが、交通環境の整備につきましては安全教育とともに重要な事故防止の施策でございますので、市といたしましても関係機関と調整の上、その整備、充実に努力してまいりたいと思っております。

第一点の歩道につきましては、それぞれの道路管理者におきまして歩道設置の余地を有する道路部分から年次計画によりまして逐次設置いたしております。

また、信号機の設置につきましては、県公安委員会の所管でございまして、逐次設置をみておりますが、この年次計画の策定、設置順位は市からの要望がもとになっているわけでございますので、今後必要箇所への設置を要望してまいりたいと存じます。

さらに、道路照明灯は、道路管理者におきまして必要箇所に順次設置いたしております。

第二点の児童の交通事故防止につきましては、最も関心と努力をはらわなければならないところでありますが、御指摘の児童の交通安全教育につきましては、文部事務次官通達あるいは小、中学校学習指導要領等に基づいて、学校教育の中で安全教育を行なうこととされておまして、その体制は確立されているところでありまして、館山市におきましては、さらに小、中学校交通指導担当者の連絡会議を定期的に開催し、指導要領の調整をはかっております。

また、従来組織化の遅れました児童の安全教育につきましては市内公、私立の幼稚園、保育所の安全指導担当者の連絡調整機関

として昨年館山市園児交通安全会を組織化いたしましたして、指導のための情報交換等によりまして、指導技術の向上をはかっております。

第三点の通学路の整備につきましては、警察署、道路管理者に對しまして通学路の整備を優先するよう要望を續けてまいりました。幸い、関係機関の御理解と御協力によりまして通学路における安全施策は逐次整備されている現況でございます。

なお、秋の交通安全運動を期しまして、小学校スクールゾーンを設置すべく現在各地域において住民運動の組織化を促進中でございます。

児童交通公園の設置につきましては、用地確保の問題、財政的な問題等の関係もありまして、大規模交通公園を早期に設置することは困難と思われましますので、小学校の校庭等を利用した教育施設の充実について関係機関と協議してまいりたいと考えます。

第四点といたしまして、裏通りや路地を交通規制して子供の遊び場をとということでございますが、交通規制に伴う生活への影響さらに車両保有者のメリットについて相当不満も出てまいりますので、先ほど申し上げましたスクールゾーン設定とともに各地域ごとに児童遊園地周辺の交通環境整備につきまして、ちびっ子ゾーンの設定も合わせて協議していただくよう指導しておりますので、今後は道路利用につきましても地域ごとの調整の中で積極的に取り組んでまいりたいと思ひます。

第五点の買物道路、歩行者天国等につきましては、過去何回か話し合いがなされたところでございますが、最近におきます関係者の会議では、秋に試験実施のムードが高まりつつある状況でござ

いますので、今後は市における指導性の中で実現の方向づけをしてまいりたいと考えております。

次に、不幸にして交通事故の被害者となられた方々の救済は事故対策と合わせて重要かつ急務といったところであります。当市といたしましては、現在十四名の方たちを交通相談員として御委嘱申し上げ、被害者からの御相談に応ずるとともに、交通課におきましても常時御相談をお受けいたしております。

これらの事故相談はあくまでもアドバイスということでありまして、示談に介入する権限を持って処理するものではございませんが、この点は早期解決の方法について御相談にみえられる方に御不満を感じさせていることと存じますが、市が公の機関として個人の損害賠償に関与いたすことにつきましては、いろいろと問題もあるようでございますので、今後の研究課題といたしたいと存じます。

公害問題でございますが、海水、河川の汚濁防止のために定期的な検査を行ない、処理、処分の技術開発を考える必要があると思ひがということでございますが、海水及び河川の汚濁防止につきましては、水質汚濁防止法に基づきまして県が常時監視することになっておりますので、県は本市におきます主要河川の汐入川と平久里川及び館山周辺において通年調査のほか臨時調査も行なつて汚濁防止につとめているわけでございますが、市といたしましては県の調査のみにゆだねず、独自の海水、河川の検査も実施いたしまして、現状の把握につとめておるところでございます。

なお、処理、処分の技術につきましては、県におきましてその開発が進められております。市におきましてもできる限り検討し

てまいりたいと思うわけでございます。

なお、し尿処理場の現況につきましては、先ほど辻田議員さんの御質問のときにお答え申し上げましたが、同趣旨と考えられますので、今後とも十分これにつきましましては早期に検討を進めてまいりたいと思いますので、よろしく御了承たまわりますようにお願い申し上げます。

以上、申し上げまして答弁にかえさせていただきます。

○八番（石井武敏君）　まず、第一点の福祉政策の中の第一点ですが、勤労者の労働福祉充実のために独身青年のための云々という再質問でございますが、ただいま答弁いただきましたように、数々の現行の制度というものがあつてくれども、やはり金利の面で多少の問題点があるように思います。

私は、ここでちょっと提示しておきたいのは、仙台市におきまして勤労者の互助会貸し付け制度というのをつくっております。非常に好評を受けておるといふ実例があります。これは独自の福利厚生制度を持たない職場に働いておる勤労者の生活の安定と福祉の向上をはかるために設置してあるわけでありますが、たとえは、互助会員の勉強または家庭の教育等に必要な資金の貸し付けとか、あるいは会員または家族の疾病の療養に必要な資金を貸し付けたり、あるいは冠婚葬祭の必要な資金、あるいは出産資金ですね。その他生活に必要な資金あるいは住宅の新築に必要な資金住宅の買収に必要な資金等々貸し付けている制度があるわけでございますが、非常に好評を受けております。

というのは、この制度のために、いわゆる求人对策といえますか、従業員の定着化といえますか、そのべんに大きな成果が認め

られるという点で大きくその評価がかわれているのですけれども、こういった制度に対してはどのように考えますか。教えてもらいたいと思います。

それから、老人対策につきましては、巡視員制度が現在実施されておると思います。ホームヘルパー制度ですけれども、今の答弁ではその状況がどのように実施されているか。具体的な状況がありませんでしたので、お伺いしますけれども、何人ぐらいでどのような成果があつたかという具体的なことでお知らせ願いたいと思います。

また、六十五歳以上の寝たきり老人は、市内に何人ぐらいいるか。掌握してあれば教えてもらいたいと思います。重傷心身障害者の数ですね。これらをお聞きしておきたいと存じます。

それから、交通対策につきましては、特に児童交通公園の設置についてありますが、これにつきましては昭和四十五年度の三月の定例会におきまして質問されております。すなわち安西議員のほうから質問がされておりました、それに対して市長がこのように答弁しているわけです。ちょっと読みますけれども、市長は「児童交通公園の設置につきましては、児童にからだをもつて交通安全教育をするという趣旨と思いますが、現在におきましても教育資料センターにおきましてそういうものを求めてありまして、それに対して各学校に出張して交通指導員が実際に当たらせておるわけでございますけれども、安西さんのおっしゃる交通公園も非常に大切ではないかと思いますが、この前の議会かなんかで申し上げたと思いますが、北条小学校が七月に完成して移転することになります、そのあとは大体公園として置こうという

ことになっておりますが、公園設計等においてなるべくそういうところをそう広い面ではなくともひとつさいてそういうものをつくらどうか。いろいろ考えておりますが、公園設計の時点においてそれを相談してみたいと思います。またそうでなくても、神社とか、いろいろ境内等においてそういうことが勉強のできる施設を備えることができる場所があれば、そちらのほうをこれから検討してみたい。こういうふうと考えております。」というふうに昭和四十五年でございますが、三月の定例会に答えていくわけですけれども、もう三年の月日が流れておるわけですからいろいろ御検討があったと思いますので、そのへんの具体的な推移についてどのような検討でそれが進んでいったか。そのへんをお伺いしたいと思います。

以上、お願いいたします。

〇 商工観光課長（鈴木 力君） 第一点の勤労者の労働福祉充実のための生活資金の貸し付け制度でございます。

勤労者に対します福祉対策ということは現在問題になっております若年労働者の不足の問題あるいは定着化の問題等から見ましてもきわめて重要なことでございまして、特に生活資金の融資につきましましては非常に大事なことでございます。

現在、小規模事業所あるいは比較的小さな商店等におきましては、これらの勤労者に対しまして生活資金融資制度といたしまして、勤労者団体におきまして信用基金貸し出し制度というものがあつたわけでありまして、この制度につきましましては比較利用が少なくないというような現状でございますが、今後これらの制度を活用をはかるようなことで、市いたしまして十分対処してまいりたい

と思います。

なお、仙台市等で行なっております勤労者の互助会制度でございますが、これはきわめて適切な制度でございますので、市におきましては、今後これらの問題につきましまして十分検討してまいりたい。かように考えております。

〇 福祉事務所長（斉藤武男君） 第二点につきまして御説明申し上げます。

ヘルパーの現況ということでございますが、ヘルパー制度ができましたのが四十四年でございますけれども、現在六名のヘルパーによりまして四十二名の対象を実施しておるわけでございます。内訳は老人が三十八、身障関係が四名でございます。それで、現在まで九十九ケースのヘルパーの派遣をしたということの実績でございます。

それから、六十五歳以上の寝たきり老人の実態ということでございますが、先ほど御答弁申し上げましたように、六月から八月にかけてまして福祉の総点検というようになことで民生委員さんを通じて一斉調査をやっておるわけでございますが、その中で明らかになってきておりますのが、独居老人が三百七十名でございます。六十五歳ということでございますが、この六十五歳以上の館山の人口が五千九百四十四名でございますので、約六・二五％という率になっておるわけでございます。

それから、重度の障害者の関係でございますが、一、二級の関係が二百五十三名でございます。以上でございます。

〇 交通課長（山口 一君） 第三点目の児童交通公園の関係でございますが、確かに四十五年度の議会におきましても御答弁したと

おりでございます。中央公園の設計される段階におきまして交通公園を加味したものとよりよいことで交通関係からそのような要望を提出したわけでございますが、御承知のとおり中央公園は都市公園として設置されるということで、いろいろな交通関係からの要望が取り入れられないで現在のよりよい状況になったわけでございます。

この件につきましては、設計の段階で本市の都市計画審議委員会においても御審議していただいておりますのでございます。

なお、この交通公園にかかります交通公園と同じ性格を持たせるために、現在資料センターに信号機等を中心といたしました交通安全施設のセットがでございます。それらを各学校あるいは遊園地等に持ち回わりまして、現地におきまして交通指導員等により直接指導を行なうて、交通公園にかわるべき指導を実施しているというのが実情でございます。

〇八番(石井武敏君) 先ほど、落としちゃったんですが、移動浴槽車ですけれども、これは鴨川で実施されているよりなんですが、そのへんがもし掌握してあればどのような状況下でやっているか。実施して市民に非常に喜ばれているか。あるいは問題点は何か。もし、そういう点が掌握してあれば教えてもらいたいと思います。

それから、交通公園のほうですけれども、交通公園にかわるべき資料センターにおけるそういった交通用具を用いて現地を回わって指導しているということですが、県内にも幾つかの実施している交通公園をつくっている地域があるわけでございますけれども、それらに対して視察を行なってその結果どうであったか。また視察に行ったかどうか。その点を教えてもらいたいと思

います。

〇福祉事務所長(斉藤武男君) お答え申し上げます。

この浴槽車の関係でございますけれども、最近、ふとんを乾燥する乾燥車でありまして、あるいは食事を運びます食事のサービスカーでありますとか、ただいまお話しした浴槽車の関係とかいろいろ施策が行なわれておるわけですが、この浴槽車の関係におきましては、県内では船橋と鴨川さん二カ所であるわけでございます。

命によりまして、五月の時点で鴨川市にまいりまして視察もしてまいりましたわけですが、その時点では十八ヶ所を一週間おきに希望に応じて巡回しておるといような状況でございます。実際にその車と回わって歩いたわけでございますが、非常にたいへんな事業だなどという感じを受けたわけでございます。

と申しますのは、そういうような何カ月もおふろに入らない方がいらっしゃるわけですが、予定を組みまして巡回しているわけですが、せっかくまいりまして、その時点で熱があったり、いろんな状況がございまして、車がきたけれども入れないというふうなケースもあったわけでございます。脈搏の検査やら体温やらいろいろいたしまして、看護を受けて約五分か八分ぐらいたいへんぬるいお湯の中に入りまして、看護婦さん付添いでやっておるわけですが、いろいろその他交通規制の関係等もありまして、やたらなところに駐車できないのだというふうな問題もあるようでございます。

それから、船橋のほうの関係につきましては、大型バスである一定の広場に駐車をいたしまして、それから小型の運送車がい

りまして、その大型バスの中に浴槽があるわけでございますが、そこに輸送してまいりましておふろに入れるというような状況でございまして、やはり冬の時点でございまして、途中かぜをひかしちゃならないとか、いろいろな問題もあるようでございますがそういうような状況でございまして。

○交通課長（山口 一君） 第二点の県内におきます交通公園の設置の個所でございます。千葉、松戸、市原、茂原の四市に設置されております。

なお、これにつきまして、これらの施設の視察の計画でございますが、当初確かにその計画がございましたんですが、先ほど助役のほうからお答え申し上げましたように、この施設を早期設置が困難でございましたので、一応視察は見送りというような形になっております。今後必要あればまた計画をしていきたい。このように考えております。

○八番（石井武敏君） 先ほど、御答弁いただきました一番最初の問題ですけれども、勤労者の貸し付け制度なんですけれども、なにかお話しでは民生金庫の制度ができておるけれども、まだ利用者が少ないということでございますが、さらにPRが不足しているように思いますので、この点広報で知らせるとか、そういうた努力をお願いしたいと思います。

また、老人対策につきましては、特別養護老人ホームですかの建設の計画があるということですけれども、これらにも移動浴槽車にかわるべきなにかそういう施設を、たとえば機械をもつて入浴をさせるとか、介添え人等がたくさん必要でなくても入れられる制度とか、そういうた点を検討していただきたいと思っております。

それから、老人対策については、特に六十五歳以上の寝たきり老人は百二十七人ですか、おるようですし、重度心身障害者二百五十三人、二級の者がいるという答弁がありましたけれども、これらの老人の実態というものをもう一步深く調査して対策を立てる必要があるように思われます。

老人福祉法の第二条に「老人は多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として敬愛され、かつ健全で安らかな生活を保障されている。」というところが胸にびーんと響くわけでございますけれども、これらの条文がいきいきとした血のかよったあたたかい老人対策をお願いしたいと思うわけでございます。

交通対策につきましては、児童交通公園にかわるべきものを用意されていると思えますけれども、非常にこれらは交通状況がまだまだかわってきております。非常に子供の飛び出し事故とか、そういうた面で社会問題化している昨今でありますので、ぜひ交通公園の設置を計画に入れて今後も続けて検討していただきたいと思います。

また、先ほどの答弁の中で、遊び場を中心としたところの道路に自動車を取り入れを規制していくというちびっ子ゾーンとかいうような表現がありましたけれども、それについてはどのような形態なのか。ちょっと教えていただきたいと思います。

○交通課長（山口 一君） ちびっ子ゾーンの関係について御説明申し上げます。

このことは、本年度の秋の運動より実施されるということで新しく出てきた制度でございますが、いわゆる児童の事故を分析して見ますと、いわゆる学校の管理下を離れたときに多い。ことに

十一 四 力
自宅周辺においての事故が非常に高率であるというようなことから、子供の遊び場を確保しようということが主眼であります。

一応、考え方といたしまして、子供の遊び場すなわち児童遊園地でございますが、この児童遊園地の周辺道路の環境整備といたしまして、子供の安全をはかるというのが、このちびっ子ゾーンの設置の趣旨でございます。

県のほうで、うちのほうに通知がまいりましたものを見てみますと、一応児童遊園は県のほうからの助成によって設置されるものと、市独自で設置されるものとございますが、県のほうでは、県から助成をしてつくられたところの児童遊園地の周辺の環境整備ということで考えておりますが、市といたしましてはそのようなことでなく、かまわず子供の遊び場周辺の環境整備をはかるというところで現在計画中でございます。

一応、考えられますことは、遊園地周辺の道路につきまして車の規制を行なうということ、ここは子供の遊び場であるというような表示をはっきりとするというようなことが考えられます。今、県のほうで考えておりますのは、一応モデルゾーンといたしまして、館山地区の上仲遊園地、それから六軒町の諏訪神社にございます六軒町遊園地この二カ所をモデルといたしまして、そのようになちびっ子ゾーンの設定の基本的な線をそこに設置してみたい。このように考えております。

〇八番（石井武敏君） 結論的に私の要望を述べて質問を終りたいと思いますが、いずれにしても交通対策につきましては、最近わが国のモータリゼーションの急激な発達というのは、私たちの日常生活の中で交通事故の急増あるいは交通障害あるいは排気ガス、

騒音公害をもたらして住民本位の生活と健康に甚大な被害を与えているわけですが、歩道の新設と信号機、照明灯の設置についてはこれらの対策は交通対策の中でも初歩的であると思います。最も基本的な問題であると思いますので、よろしく御検討をお願いしたいと思います。

また、児童に対する交通安全の教育の体制を確立する必要があると思いますが、特に最近めだつて多いのは児童の飛び出し事故が増加しているという現状があります。児童交通公園の設置も合わせて検討を続けていたいただきたいと思っています。

また、裏通りの路地等の自動車乗り入れを規制して、子供の遊び場を確保するというたぐいまい答弁がありましたように、ちびっ子ゾーンの設置これはいわゆるなにか人間そのものの生命が置き忘れられたような殺ばつとした現在の中で、オアシスを求めるような感じがするわけです。ぜひとも、これらの実施を一日も早くするように推進していただきたいと思っています。

また、交通事故の処理を迅速に行なつて被害者の権利と生活を守るための強い権限を持つて、交通事故紛争機関を設置できないかという問題であります。交通災害総合センターというのを設置してあるところもあるんですが、地域におきましてはそういう事故後の処理体制あるいは被害者の救済体制あるいは被害者の生活援護体制、これらのポイントをがっちりと援護している。そういう体制もあるので、今後研究課題としていたいただきたいと思っています。なお、公害問題につきましては、先ほど御答弁がありましたけれども、川をきれいにする運動は今後も盛り上げていきたいと思っていますが、わが市におけるこれら海水汚濁あるいは河

川の汚濁に対する技術的の面からいえば、幼稚であるといわれてもいたしかたがない現状でありますので、今後とも合わせてこれを検討していただきたいと思います。

し尿処理の現状も限界を越えておりますので、これは急を要する問題であります。一日も早く抜本的な対策を立てて対処していただきたいという要望をそえて私の通告質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君）、以上により通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後四時散会

○議長（吉田勇治郎君） よって、本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は、明八月二十八日午前十時開会といたします。その議事は、各議案の内容審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

